TDC

東京歯科大学同窓会会報

215

1983年10月

東京歯科大学同窓会会報　第215号

目　次

巻頭言……1
お知らせ……2～3
昭和58年度同窓会評議員会・総会・懇親会……4～5
本部短信……6
理事会のうごき……7
杉山不二元学長の逝去を悼む……8～11
逝去会員……12
東京歯科大学入試案内……13～14
東京歯科大学衛生士専門学校入試案内……15
学　術……16～26
——誌上講演会——
母校だより……27～35
会員トピックス……36～37
支部のうごき……38～40
クラス会だより……41～46
へんしゅうこうき……48

（表紙・カット　菊池　豊）

千葉校舎の庭(6)

千葉の校舎には緑の学園という言葉にふさわしく多くの樹木が植えられているが，近代的な建物に調和したいくつかの美しい庭が造られている。

これらを順次紹介してゆく。

臨床・管理棟と病院棟の間の中庭

この中庭は大学玄関のある臨床・管理棟と病院棟との間にあり，両棟を結ぶ渡り廊下から良く見える中庭である。2色の敷石が織りなす幾何学模様の中に植えられた譲り葉（ゆずりは），山椿（やまつばき），柊木犀（ヒイラギもくせい）の木々の緑と渡り廊下の白そして両棟の渋い濃い茶色とのコントラストは，深い落着きの中に近代的感覚の無限の拡がりを感じさせる。ちなみに深みのある濃い茶色の石は伊豆大島の軽石，クリーム色の石は群馬県榛名山由来の軽石である。スケールの大きい全地球的，宇宙的な発展を意味するこの中庭は見る人々の未来への希望と期待を大きく膨らませてくれる。

〔グラビア撮影：松井恭平〕

巻頭言

母　校　愛

副会長　安嶋宣忠

同窓会創立80周年記念募金事業は，去る7月16日の東京歯科大学施設整備資金募金寄付者銘板除幕式をもって有終の美を飾ったのである。

顧みると，昭和50年11月の同窓会創立80周年記念祝典にこの募金事業を計画し，玆来，募金研究特別委員会の開催，そして実行委員会の設置により募金趣意書，要項，さらには，寄付金税控除の特典等が加味せられ，満を持して目標額を10億と定め実施したことは周知の事実である。当時は，他の総合大学においても種々の形の募金運動が盛んなようであったが目標額に達することは至難であると云われていた。ところが我が同窓会は目標額を遙かに突破したのである。即ち，10億8,000万円となり，約5,000名の会員の絶大な協力と熱意の結晶がすばらしい偉業となったのである。感謝とご同慶の極みである。募金の会長として終始し，この募金が最後のお仕事でもあった故井上名誉会長は，河邊現会長に託されたこの事業が完成し募金寄付者銘板の建立により完結を見たので，非常に喜ばれ安堵されたのである。除幕式祝典後20日有余で逝去されたことからも推察され，ただご冥福を祈るのみである。

お二人の会長によって成就した事業ではあるが，全同窓が一致協力して建学の精神を発露し開花せしめた快挙であることに大きな意義があり一入の感激が加わるのである。と同時に実行委員としてご活躍いただいた全国支部長各位の陰のご尽力に深く敬意を表する次第である。

本会創立90周年も目前に控え，やがて100周年の慶事を思考するとき建学の理念を高揚して先人の威徳を継承し，また母校愛を顕示すべきときが到来したのである。

お知らせ

○ 第220回東京歯科大学学会総会

と　き　　昭和58年11月5日(土)，6日(日)

ところ　　東京歯科大学　千葉校舎

第1日目

9：30～13：40　一般講演

9：30～13：50　示説

13：50～15：30　特別講演

「ヒ素の薬理と毒理」

堤　璋二教授

「齲蝕・歯周病の予防を目指して」

高添一郎教授

第2日目

9：30～10：50　一般講演

9：30～12：20　示説

11：00～12：20　評議員会

12：20～12：50　総会

13：00～16：10　シンポジウム

「歯科領域のインプラントを考える」

○ 第12回同窓会主催全国ゴルフ大会

と　き　　昭和58年11月11日(金)

ところ　　袖ケ浦カントリークラブ　袖ケ浦コース

○ 昭和58年度東京歯科大学同窓会　評議員会・後援会総会・定時総会・懇親会

と　き　　昭和58年11月13日(日)　午前10時

ところ　　高輪プリンスホテル

＊詳細は4～5頁を御覧下さい。

昭和59年度東京歯科大学入学試験

試験日　　昭和59年**2月1日**(水)，**2日**(木)

試験場　　東京歯科大学　千葉校舎

願書提出期間　　昭和58年12月15日(木)～昭和59年1月20日(金)

試験内容　　学科試験(**英語，数学，理科**)，適性試験

小論文試験，面接試験，健康診断

○入学試験日の変更にご注意下さい。

○昭和59年度入学試験要項・東京歯科大学要覧をご入用の方は，東京歯科大学（千葉校舎）教務課へ**1,500**円（郵送の場合は350円分の切手を同封）を添えてお申し込み下さい。

なお水道橋校舎でも直接受けとられる方にはお頒け致します。

新年交歓会御案内

恒例の新年交歓会は**昭和59年1月1日（日）の午後1時**から行います。ご家族の皆様と御家庭でゆっくりと新春を迎えられた後，母校水道橋にご参集戴き，旧知旧友と共に新年を寿いで戴きたいと存じます。

日時　昭和59年1月1日（日）午後1時

場所　東京歯科大学（水道橋校舎）中央ホール

東京歯科大学
理事長　鹿島俊雄　　学長　高木圭二郎
同窓会長　河邊清治　　父兄会長　山　清

○ TDC 卒後研修セミナー　'84プログラム

総合的な視点にたった歯科診療
調和のとれた歯科医療を求めて〔I〕

◇ **第1回〔昭和59年3月24日(土)〕**
＜調和のとれた歯科医療を求めて＞

◇ **第2回〔昭和59年4月21日(土)〕**
＜不調和の現象から学ぶ＞　インレーの諸問題を中心に　患者の心理

◇ **第3回〔昭和59年5月19日(土)〕**
＜口腔全体の調和のために＞
1）保存修復をみなおす　2）筋・神経のしくみ　3）一本の歯の重み

◇ **第4回〔昭和59年6月16日(土)〕**
4）発育との調和
＜臨床レポート―臨床医の実践の場から―＞　1）地域との調和　2）社会との調和

◇ **第5回〔昭和59年7月21日(土)〕**
＜修復と生体の調和を中心に＞　経過観察の要点　痛みの人間学

◇ **第6回〔昭和59年9月8日(土)〕**
＜歯科診療の調和のための諸問題＞
1）歯髄上皮の特性　2）メインテナンスとリコール　3）補綴処置の諸条件とプランニング

◇ **第7回〔昭和59年10月20日(土)〕**
4）菌叢のバランスと口腔疾患　5）歯周病患者の修復処置
'84まとめと'85以降の展望，受講証の授与，会長挨拶

本セミナー参加の申し込み〆切は昭和59年2月10日ですが，ご案内の詳細は次号（210号：12月）に掲載致します。
ところ　経団連会館　経団連ホール（地下鉄丸の内線・千代田線・大手町駅，国電東京駅下車）

昭和58年度東京歯科大学同窓会
評議員会，後援会総会，定時総会，懇親会日程

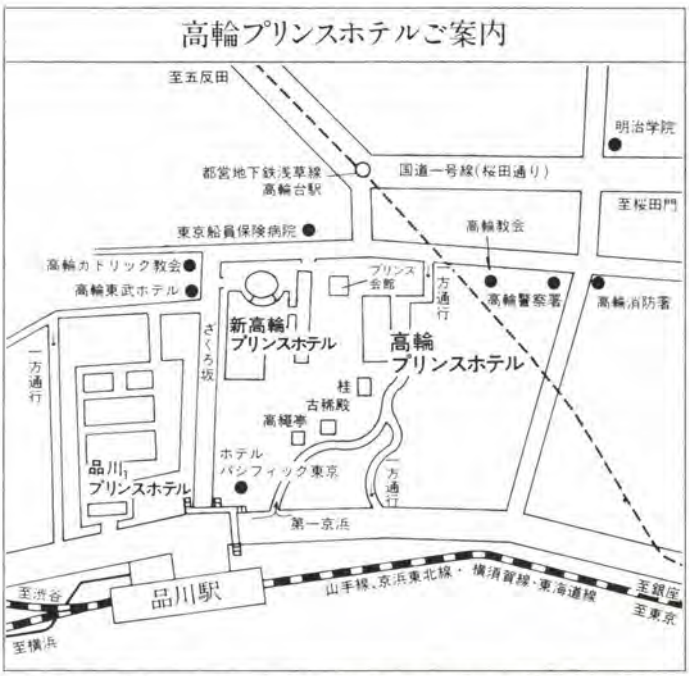
1.　日時　昭和58年11月13日（日）午前10時から
2.　会場　高輪プリンスホテル
（港区高輪3—13—1
電話代表（03）447—1111）

3.　日程

区　　分	時　　間
評議員会	午前10時00分～午後2時30分
後援会総会	午後2時40分～午後3時30分
定時総会	午後3時40分～午後5時40分
懇親会	午後6時00分～午後8時00分

昭和58年11月13日（日）
午前10時～午後2時30分
東京歯科大学同窓会評議員会

1.　開会の辞
1.　点　　呼
1.　会長挨拶
1.　来賓挨拶
1.　議長，副議長選出
1.　議事録署名人選出
1.　報　　告
(1)　昭和58年度会務報告
(2)　昭和58年度会計現状報告



国電・京浜急行品川駅から徒歩5分/都営地下鉄浅草線高輪台駅から徒歩3分。

1. 議　　事
　第１号議案　昭和57年度　東京歯科大学同窓会経常部収支決算に関する件
　第２号議案　昭和57年度　東京歯科大学同窓会特別会計収支決算に関する件（同窓会基金，血脇記念基金，共済基金，名簿積立金，退職積立金）
　第３号議案　昭和57年度　東京歯科大学同窓会財産目録の承認に関する件（監事報告）
　第４号議案　昭和59年度　東京歯科大学同窓会事業計画に関する件
　第５号議案　昭和59年度　東京歯科大学同窓会入会金に関する件（現行，本学出身の会員5,000円，推薦会員50,000円）
　第６号議案　昭和59年度　東京歯科大学同窓会会費に関する件(現行，12,000円)
　第７号議案　昭和59年度　東京歯科大学同窓会経常部収支予算に関する件
　第８号議案　昭和59年度　東京歯科大学同窓会共済負担金に関する件（現行，4,000円）
　第９号議案　昭和59年度　東京歯科大学同窓会特別会計収支予算に関する件（同窓会基金，血脇記念基金，共済基金，名簿積立金，退職積立金）
　第10号議案　昭和58年度　名誉会員の推薦に関する件
　第11号議案　昭和58年度　叙勲，褒章受章者顕彰に関する件
　第12号議案　役員改選に関する件
1. 閉会の辞

昭和58年11月13日（日）
午後３時40分～午後５時40分
第89回東京歯科大学同窓会定時総会

1. 開会の辞
1. 会長挨拶
1. 来賓挨拶
1. 議長，副議長選出
1. 議事録署名人選出
1. 報　　告
　(1) 昭和58年度　会務報告
　(2) 昭和58年度　評議員会報告
　(3) 昭和59年度　東京歯科大学同窓会経常部並びに特別会計収支予算に関する件
1. 議　　事
　第１号議案　昭和57年度　東京歯科大学同窓会経常部収支決算に関する件
　第２号議案　昭和57年度　東京歯科大学同窓会特別会計収支決算に関する件（同窓会基金，血脇記念基金，共済基金，名簿積立金，退職積立金）
　第３号議案　昭和57年度　東京歯科大学同窓会財産目録の承認に関する件（監事報告）
1. 叙勲，褒章受章者顕彰式
1. 閉会の辞

山本義茂名誉教授　第13期日本学術会議会員選挙に立候補

山本名誉教授は，東京歯科大学学会の推薦により，今回の選挙にも出馬することになり，去る９月24日立候補の手続きを済ませました。第11期，第12期選挙における皆様の御支援を感謝申し上げますとともに，今期もなにとぞよろしくお願いいたします。

なお，投票用紙，選挙公報の発送は11月中～下旬，投票締切日は12月19日です。

東京歯科大学学会会長　高　木　圭二郎
第13期選挙対策委員長　瀬　端　正　之

本部短信

1) 行事出張，その他

7月16日　神奈川県支部連合同窓会　河邊会長出張
20日　卒後研修特別委員会（プログラム作成委員会）
21日　卒後研修特別委員会（プログラム作成委員会）
31日　東海地域支部連合会総会　河邊会長，山脇副会長，伊藤理事出張
8月6日　名誉会員（元学長）故杉山不二氏大学葬　河邊会長他役員参列
8日　名誉会長井上真先生午後7時39分逝去
10日　卒後研修特別委員会（プログラム作成委員会）
10日　役員打合会（在京副会長，各部主任理事）
12日　名誉会長故井上真先生葬儀　河邊会長他役員参列
18日　卒後研修特別委員会（プログラム作成委員会）
22日　役員打合会(福本，津島，坂，天野，佐々木理事)
23日　役員打合会（河邊会長，伊丹，安嶋副会長，福本理事）
24日　広報部委員会（企画）
25日　神奈川支部連合ゴルフ大会　福本理事出張
9月3日　卒後研修特別委員会（全体委員会）
3日　関東地域支部連合会総会　伊丹副会長，関口，永井理事出張
10日　卒後研修セミナー最終回　河邊会長出席
14日　広報部委員会（編集）
16日　理事会（午後6時30分於西別館会議室）（9月17日を都合により変更）

2) 支部長交替

室蘭支部　佐々木　寿（昭27．3卒）
（旧）前田　忠蔵（昭10．3卒）
昭和58年4月1日付交替
静岡県支部　萩原　弘士（昭16．12卒）
（旧）朝浪　惣一（昭10．3卒）
昭和58年5月29日付交替
江戸川支部　宝田　忠（昭28．3卒）
（旧）田中　規正（昭23．3卒）
昭和58年6月15日付交替
西多摩支部　本間　菖平（昭29．3卒）
（旧）佐藤　光一（昭22．3卒）
昭和58年8月1日付交替

旧支部長各位には，ご退任に際し，本会事業発展のためご尽力をいただいた功績に対し感謝状と記念品を贈呈いたしました(昭和57年度から)。

3) 罹災会員

罹災会員に対し，心からお見舞申し上げます。
島根県支部　湯浅　義人（昭3．3卒）
（昭和58年7月23日山陰地方集中豪雨のため床下浸水）
島根県支部　山根　康雄（昭44．3卒）
（昭和58年7月23日山陰地方集中豪雨のため軒下まで浸水）

理事会のうごき

第４回理事会　昭和58年７月16日（土）午後１時30分　於母校千葉校舎（第１会議室）出席者39人，議長山脇副会長（会長の指示による）主な会務報告並びに協議事項は次のとおりです。

1. 会務報告

(1) ６月15日東京地域支部連合会主催の東歯関係社保，国保審査員懇談会の際に官公立病院等の歯科医師補充対策として，大学側の窓口確立について要望があった旨報告，今後の進め方について総務部と渉外部担当理事とで充分に検討することとなった。

(2) 昭和58年度学術部事業としては前年度同様，会報に学術誌上講演会として発表，田多井吉之介東京農業大学教授に「老化は予防できるか」の執筆を依頼，会報第215号（10月），会報第216号(12月)の２回，また臨床 Q & A についても引続き掲載を計画している旨報告，了承。

2. 協議事項

(1) 会則等改正委員会の設置は第３回理事会（５月14日）において決定，委員の構成について審議の結果，次のとおり承認。

① 各地域支部連合会長または連合会長の推薦する者１名（11地域から11名）

② 大学支部長または大学支部長の推薦する者１名

③ 同窓会役員の中から会長の指名する者８名（在京副会長２名，総務，会計，渉外，学術，広報，共済部から各１名）

④ 任期は委嘱の日から昭和58年12月31日までなお，会則等改正委員会に対し，今後の進め方等諮問事項について文章をもって諮問するよう要望があった。

(2) 一期会卒業30周年記念式典時のお祝金１万円を支出，今後の取扱については，30周年以上10年毎の式典(例えば30周年，40周年，50周年～)にはお祝金として一律１万円を支出することについて承認。

(3) 大学学長「退任松宮学長，新任高木学長」歓送迎会時のお祝金10万円支出を承認

(4) 昭和57年度経常部，特別会計，特別経理収支決算(案)について，次の経理単位別に説明，承認。なお，別途監事の会計監査を受ける旨報告。

① 昭和57年度経常部収支決算（案）

② 昭和57年度同窓会基金，血脇記念基金，共済基金，名簿積立金，退職積立金収支決算(案)

③ 昭和57年度卒後研修セミナー収支決算(案)

④ 昭和57年度卒後研修セミナー積立金収支決算（案）

(5) 昭和57年度財産目録(備品，定期，普通預金)案について説明，承認。

(6) 次年度繰越金について，従来は年度当初特に１月～３月までの運用資金的性格を有していた，昨年度の評議員会において年度当初における運用資金として同窓会基金の一時的繰入等の質問もあったが，最近は年度当初における会費等の収納も順調であるため，当分の間現行の方法によって運用いたしたい旨を説明，今年度の評議員会に報告する。承認。

(7) 昭和59年度，経常部および共済基金収支予算編成にあたり，入会金，会費，共済負担金について，現行（値上げしない）どおりとしたい旨説明，承認。

① 入会金（現行本学卒業者5,000円，推薦会員50,000円）

② 会費（現行昭和58年度から12,000円）

③ 共済負担金（現行昭和56年度から4,000円）

(8) 推薦会員入会願いについて，入会を承認。
江戸川支部　石和田清一氏（東北歯大昭和53・3卒）

(9) 寄付金について次のとおり申し出であった旨説明，受入を承認。

① 寄付金額　208,000円

② 申出者　故酒巻一郎氏（元深川支部会員）の実弟酒巻政夫氏

③ 受入会計　共済基金会計（寄付金）

杉山不二先生ご逝去

本会名誉会員，母校元学長 杉山不二先生には去る７月16日心不全のためご逝去されました。密葬は７月19日東京杉並区の御自宅において執り行われました。

母校は先生の在職中のご功績に対し８月６日信濃町千日谷会堂において大学葬の礼をもって送られました。

弔　辞

東京歯科大学元学長杉山不二先生は去る７月16日午後４時10分心不全のため卒然として逝去さるの悲報に接し私は深い悲しみにたえません。

先生は明治33年２月15日東京都文京区に生まれ長ずるに及び歯科医師を志し大正９年本学を卒業し，保存学教室の助手，講師，助教授を経て昭和16年１月教授に昇格し，さらに大学役職として学監，副学長を経て昭和40年６月学長に就任し，６年後学長を辞任，退職と同時に名誉教授として後進のよき指導者としてその責任を果たしておられました。

その間日本歯科保存学会々長，日本歯科医学会々長，又歯科医学界を代表して日本学術会議会員に選任されました。

その他厚生，文部各行政部門にも多大の奉仕を捧げ厚生省関係では歯科医師国家試験委員，中央薬事審議会委員，文部省関係では大学設置審議会委員，歯学視学委員，学術審議会委員等の要職を歴任され，社会的に多くの重要役職をその学識経験を生かし遺憾なく発揮されその功績は関係者の均しく認めるところであります。

一方先生は本学法人評議員として19年間，常務理事として８年間の永きにわたり法人経営の中枢にあって大学の健全な運営に尽力されその充実・向上に幾多の貢献をされました。

本学は現在，水道橋校舎の増改築計画を検討している重大な時期であり，先生が学びそして奉職された水道橋校舎の生れ変った姿をみて戴くつもりでありました。しかし幽明境を異にした現在永年にわたる本学に対する先生のご功績を偲びその努力に対し心から感謝の言葉を捧げるものであります。

私どもはこの悲しみを乗り越えてよりよき大学建設と発展のため今後一層の努力をいたすことをここにお誓いして弔辞といたします。

在天の霊の安らかに眠られんことを

昭和58年８月６日

学校法人東京歯科大学

理事長　鹿　島　俊　雄

弔　辞

東京歯科大学教職員を代表し，謹んで　故杉山不二先生の御霊前に弔辞を捧げ，私たちの心からなる哀悼の意を表します。

先生は，大正９年本大学の前身である東京歯科医学専門学校をご卒業後学長ご退任に至る50年有余の間，ただ一筋に全身全霊を打ち込んで母校の発展と歯学の向上に貢献されました。その間保存学教室主任教授として立派な研究業績を残されました。また多数の優秀な教育研究者，臨床歯科医を育成されました。

そのほか初代歯科衛生士専門学校長，学監，さらに副学長の重責を果され先生の献身的なご努力とご活躍は今日のわが大学の発展に大きな貢献をなされました。

昭和40年学長に就任されるや，きわめて卓越した管理力と旺盛な実行力を発揮され，着々と母校の改善と向上に幾多の実績を挙げられ母校をして今日の隆盛に導かれました。そして昭和46年学長ご退任後は，本学名誉教授として側面から数々のご支援をいただき今日に至りました。

さらに先生が大学設置審議会委員，歯科医師試験審議部会委員，歯学視学委員，中央薬事審議会委員，学術奨励審議会委員，日本学術会議会員，日本私立大学連盟理事，日本歯科医学会会長などにご就任，文部，厚生行政の両分野に残された多くのご功績もまことに測り知れないものがあります。

いま，わが東京歯科大学が稲毛の杜に新装なり今日あるとき，先生の思いがけないご逝去に遭い，私たちの痛恨これに過ぐるものはありません。しかし，母校をとりまく内外の諸情勢はなはだきびしいとき，われわれは，ただ悲嘆の情にのみ浸ることなく，新しい勇気と決意に燃えて全職員が一致協力し，先生のご遺志を継承し，東京歯科大学を益々発展させることをお誓いし御霊安かれとお祈りして弔辞といたします。

杉山先生安らかに瞑せられんことを。

昭和58年８月６日

東京歯科大学
学長　高木　圭二郎

弔　辞

東京歯科大学同窓会顧問，名誉会員，勲三等杉山不二先生の霊に申し上げます。

先生は，去る７月16日午後４時10分心不全にて，享年83才で逝去されました。

玆に謹んで心から哀悼の意を表する次第であります。

顧みれば，先生は大正９年９月，東京歯科医学専門学校をご卒業，母校に奉職，実に50有余年の永きに亘り，我々後輩の育成に専念されました。

この間，昭和40年６月に学長にご就任，二期六ヶ年間，母校発展のため，献身的ご尽力をいただきました。

他方，日本歯科保存学会会長，日本学術会議会員，大学設置審議会委員等，重要なる職責に就かれ，精力的に広く歯科界のためご活躍され，数々の輝しき業績を残されました。

また，先生は大正14年10月，若くして東京歯科大学同窓会，会頭血脇守之助先生の時代に，奥村鶴吉先生と共に本会理事として，三期六ヶ年間，本会隆盛のため貢献されました。

その後，昭和45年11月７日，本会名誉会員となられ，多くの同窓より慈父のように親しまれ，良き相談役として尊敬されました。

しかし，今，吾々の歯科界の偉大なる先覚者であった先生と永遠のお別れをしなければなりません。

杉山先生，先生の肉体は幽明の地に去るとも母校を愛し，同窓を斯くも愛した先生の魂は，とこしえに同窓の一人として心に深く刻まれ，我等の生ある限り共に生き続けることを，私は心から信ずるものであります。

在天の霊の安らかに眠られんことを私ども八千有余の同窓を代表して心からお祈り申し上げお別れの言葉といたします。

昭和58年８月６日

東京歯科大学同窓会
会長　河　邊　清　治

弔　辞

本日，恩師杉山不二先生の東京歯科大学葬が，当千日谷会堂において執り行われるに当りまして，門下生の代表として，謹しんで先生の若き日の想い出を述べて弔辞として，先生のご冥福を切にお祈り申上げたいと存じます。

想えば今から48年前，私が保存学教室に入室致しました頃の先生は，満35才，ご在学中，無遅刻，無欠席の金メタル組で，馬術，水泳で鍛え上げられたお体は，誠に逞しく，臨床，教育，研究に寧日なく，また対外的にも大変にお忙しい，きびきびした如何にも頼しい学問の権化のように見うけられた助教授でいらっしゃいました。

当時，先生は治療科長，兼，歯槽膿漏科主任でありましたが，入室早々，杉山先生こそ私の師とする先生であると心に決め，爾来，在職中，多方面に亘ってお世話様になりました。

先生は明治33年お生れの鼠年，私が一回り下の鼠年生れなので，先生のお年は自分の年のように何時でも即座に云える，何かと馬の合う間柄でありました。先生はどんなにお忙しい時であろうとも，整理，整頓は決して忘れずに行ない，殊にハタキを掛ける掃除は，極めて丁寧で，本当に綺麗好きな方でありました。先生は常日頃から，「今日できない者には，明日はなおできるはずがない」と，よくおっしゃっておられましたが，先生の率先垂範なされる整理，整頓には，全く頭の下る思いであります。先生はまた，ご記憶の整理も抜群で，長年，卒業生の就職係を担当しておられた関係もあってか，卒業生の名字，名前を多く覚えておられることは恐らく学内随一であったのではなかろうかと思います。

さて，先生は，人も知る酒豪で，斗酒なお辞せざるところがありましたが，酔うほどに，またよく食べられる方で，酒の席におられる先生は，本当に嬉しく，楽しそうにお見受け致しました。それだけに，前夜，如何にお飲みになられようとも，翌朝のご出勤は実にお早く，これも勤務に対する勤勉なご性格の現れでありましょう。

先生の若き頃の想い出は，なお次ぎ次ぎと万感脳裏をかすめますが，今なお懐しく耳に残っておりますのは，先生の明朗，磊落な一面として，お話の間に間に，突然飛び出す先生お得意の機知にして絶妙な洒落（しゃれ）であります。お話しておりましても，何時飛び出（ま）して来るか判りませんので，慣れるまでは，タイミングを外ずさないようにと，随分，緊張させられたものであります。

先生は，ご在職中，推されて学長となられ，文部，厚生の両方面から，歯科界のために大いにご尽瘁なされました。そのご功績に対して天皇陛下より，ご生前には，勲三等旭日章を叙勲，この度は従四位のお沙汰を賜わり，無上の栄誉に浴されました。

先生は83年のご生涯を通して，天賦のご才能を存分に生かされ，大学の内外に亘って縦横に活躍なされ，完全に，地上における義務を果されて，昇天なさいました。

人の天命は，私どもには如何ともすることができません。この世で，先生に再びお目にかかることができないのは，この上もなく痛恨でありますが，それも天の定めるところで，今はただ，先生のご冥福をお祈りするほかはありません。希くば，在天の霊，安らけきよう，切にお祈り申し上げて，門下生代表の弔辞と致します。

合　掌

昭和58年８月６日

門下生代表

木　村　吉太郎

逝去会員

下記の会員が逝去されました。ここに謹んで哀悼の意を表し心からご冥福をお祈り申し上げます　（敬称略・届出順）

●推　薦 福島県支部	木村栄一（82才） 〒962　須賀川市馬町1—18	左心室不全	58. 6. 14
●推　薦 旭川支部	浜本健太郎（86才） 〒095　士別市大通西七	脳梗塞	56. 3. 6
●医学校 小樽支部	安藤肇（82才） 〒047　小樽市稲穂1—2—10	心筋梗塞	58. 6. 10
●昭18. 9卒 広島県支部	田中玄太郎（60才） 〒729—34　広島県甲奴郡上下町日出2043	脳血栓	58. 6. 19
●医学校 埼玉県支部	江川三郎（84才） 〒367　本庄市本庄1—3—11	胆管炎	58. 6. 19
●医学校 室蘭支部	山本新一（76才） 〒051　室蘭市知利別26—2	急性腎不全	58. 3. 31
●大14卒 京都支部	苗加進太郎（80才） 〒604　京都市中京区堺町通錦小路下ル八百屋町553	腎硬化症	58. 6. 17
●推　薦 芝支部	八杉和一（88才） 〒194　町田市玉川学園1—21—19	老衰	58. 6. 24
●大14卒 目黒支部	雨宮忠恕（82才） 〒153　目黒区下目黒4—11—13	呼吸不全	58. 6. 26
●推　薦 深川支部	酒巻一郎（80才） 〒135　江東区白河1—3—13—405	肝臓癌	57. 6. 30
●大6卒 麻布赤坂支部	保坂謹治（88才） 〒106　港区東麻布1—5—8	肺炎	58. 6. 25
●昭12卒 大阪支部	奥原昌徳（69才） 〒564　大阪府摂津市千里丘東4—29—22	結腸癌	58. 7. 1
●昭12卒 石川県支部	坪谷金信（70才） 〒920　金沢市橋場町2—19	肝臓癌	58. 7. 14
●大9卒 杉並支部	杉山不二（83才） 〒166　杉並区阿佐谷北1—24—9	心不全	58. 7. 16
●推　薦 杉並支部	木田鶴吉（88才） 〒181　三鷹市井の頭1—6—22	老衰	58. 7. 16
●昭16卒 北多摩支部	伊庭野東光（64才） 〒185　国分寺市本町3—6—8	脳出血	58. 7. 19
●推　薦 兵庫県支部	岡田隼人（88才） 〒660　尼崎市西本町6—14	脳梗塞	58. 6. 23
●昭2卒 荒川支部	安藤義一（77才） 〒116　荒川区西尾久6—6—1	大動脈瘤破裂	58. 7. 21
●医学校 長崎県支部	鈴山末治（83才） 〒857　佐世保市稲荷町19—12	肺腫瘍	58. 7. 21
●昭6卒 杉並支部	加藤正衛（87才） 〒166　杉並区高円寺南3—35—7	心不全	58. 7. 28

昭和59年度東京歯科大学入学試験案内

来年度の母校の入学試験の出願期間，試験期日および試験内容などが次のように決りました。

詳細は10月上旬に発行の「入学試験要項」をご覧下さい。

昭和59年度東京歯科大学入学試験案内

1. 修業年限　6年

2. 募集人員　160名

3. 受験手続

1) 提出書類

(1) 入学願書

入学試験要項に綴込みのもの。

(2) 受験票

入学試験要項に綴込みのもの。

(3) 写　真

脱帽3分身，6カ月以内に撮影したもの2枚(縦5cm×横4cm)。そのうち1枚は願書および受験票にのりづけし，残りの1枚は裏面に氏名を記入し，提出すること。

(4) 出身学校長の調査書

本調査書は入学願書・受験票・受験料・写真と共に提出することが望ましいが，別に提出してもよい。

なお，本調査書には，健康の欄の記入が必要なので，あらかじめ出身校に問合せ確認のこと。もし記入してない場合には，綴込みの健康診断書を提出のこと。

調査書提出の困難な廃校・罹災校の出身者は，それに代る証明書ならびに健康診断書を提出のこと。

(5) 受験票送付用封筒

受験票の郵送を希望する者は，添付の受験票送付用封筒に宛名を記入し，切手（書留速達料共510円）貼付の上，他の書類と共に提出すること。

(6) 健康診断書

入学試験要項に綴込みのものを用い，昭和56年3月以前の高等学校卒業者のみ提出のこと。

(7) 受験許可書

就職中の者は就職先の受験許可書を，他の学校に在学中の者は学校長の受験許可書を添付すること。

2) 受験料　30,000円

3) 提出期間　昭和58年12月15日（木）から昭和59年1月20日（金）まで（日曜・祝日を除く。土曜日は午前11時まで)。

4) 提出場所　東京歯科大学（千葉校舎）
〒260　千葉県千葉市真砂1-2-2
東京歯科大学　教務部

5) 提出方法

(1) 来学して手続きする場合

昭和58年12月26日（月）から昭和59年1月5日（木）までの期間を除き，提出書類および受験料をそえて教務部に提出すること。受付は午前9時から午後3時まで（日曜・祝日を除く。土曜日は午前11時まで)。

(2) 郵送により手続きする場合

添付封筒に提出書類と受験料（普通為替・無記名）を同封のうえ，書留郵便で提出期間内（昭和58年12月15日から昭和59年1月20日）に必着するよう送ること。

注　意　一度受付けた書類および検定料は返却しない。

4. 入学試験

1) 試験内容

(1) 学科試験

英　語　英語B

数　学　数学（ⅠおよびⅡB）

理　科　物理（ⅠおよびⅡ），化学（ⅠおよびⅡ），生物（ⅠおよびⅡ）の3科目のうち2科目を試験場で選択

(2) 小論文試験

(3) 適性試験

(4) 面接試験

(5) 健康診断・色盲および強度色弱者は不合格とする。

2) 試験日時

(1) 学科試験・小論文試験・適性試験

期　日　**2月1日**（水）

集合時間　午前8時40分

時間割　英　語　9：10～10：30

数　学　10：50～12：10

理　科　12：50～14：50

小論文　15：10～15：40

適性試験　16：00～17：00

(2) 面接試験・健康診断

期　日　**2月2日**（木）

上記の午前または午後で，願書受付時に受験票の裏面に記載した時刻。

3) 試験場　東京歯科大学（千葉校舎）

4) 携帯品　試験場への携帯品は，受験票・鉛筆(シャープペンシルを含む)ボールペン(黒)・消しゴムとする。計算機に類するものの持込みは禁止する。

5) 昼　食　なるべく各自で用意すること。なお，大学食堂も利用することができる。

5. 合格発表

1) 日　時　2月8日(水)　午後4時

2) 掲示場所　東京歯科大学　千葉校舎

3) 発表方法　合格者は受験番号を以て掲示発表し，同時に合格通知を発送する。補欠者は合格発表の際に順位と受験番号を以て掲示発表する。補欠者には合格者に入学辞退が生じた場合，順位に従って補欠者に文書を以て通知し，入学手続きに必要な書類を送付する。

なお，合格者および補欠者の発表に関する電話，その他による問合せには一切応じない。

6. 合格者注意事項

合格者は学費として入学金その他，および父兄会・学生会の委託により徴収する費用を期限内に納めること。

1) 学　費

入学時にのみ納入するもの

入学金	500,000円
歯学教育充実費	6,500,000円

毎年度納入するもの

授業料	2,000,000円
施設維持費	1,500,000円
合計	10,500,000円

2) 父兄会関係費

入会金	10,000円
会費	14,000円
貸与共済基金負担金	10,000円
傷害共済基金負担金	6,000円
合計	40,000円

3) 学生会関係費

入会金	7,000円
会費	5,000円
合計	12,000円

3) 納入期間

入学金　2月10日（金）から
2月17日（金）正午まで

歯学教育充実費
授業料
施設維持費
父兄会・学生会関係費
} 2月10日(金)から2月28日(土)正午まで

4) 寄付金　施設の整備充実等にあてるため任意の寄付金を募集する。詳細は入学手続き終了後に配布する寄付金募集要項を参照されたい。

5) 優遇制度

本学貸与奨学金制度，本学父兄会貸与共済制度，本学父兄会傷害共済制度，日本育英会奨学制度およびその他の制度がある。

7. 宿舎の紹介

受験のため宿泊あっせんを希望する者は，入学試験要項綴込みの宿泊申込書に必要事項を記入のうえ，返信用切手70円を同封し，1月20日（金）までに下記の申込先に郵送すること。

申込先　〒280 千葉県千葉市富士見2-2-1
日本交通公社千葉支店
東京歯科大学受験宿泊あっせん係
電話0472（22）8485，（27）9221

昭和59年度東京歯科大学歯科衛生士専門学校入学試験案内

1. 修業年限 2年

2. 募集人員 40名

3. 出願期日（昭和59年1月9日（月）から昭和59年2月16日（木）まで）

窓口に直接差し出す場合は，日曜，祝祭日および2月12日（本学創立記念日）を除き，午前9時から午後3時まで，土曜日は12時まで。

（郵送は締切当日消印のものまでを有効とする）

4. 出願場所

東京都千代田区三崎町2丁目9番18号
東京歯科大学歯科衛生士専門学校事務室
TEL 03（262）3421（内線）288

5. 出願手続

(1) 提出書類

1. 入学願書（要項に綴り込みのもの）
2. 健康診断証明書（要項に綴り込みのもの）
3. 写真2枚（脱帽3分身，裏面に姓名記入，撮影後6ヵ月以内のもの，1枚は 9cm×5.5cm に切って同封，もう1枚は 4cm×3.5cm にして願書に糊づけすること）
4. 出身高等学校長の調査書

(2) 提出方法

1. 窓口の場合

上記の書類に入学検定料20,000円を添えて出願場所の窓口に提出する。

2. 郵送の場合

① 入学検定料を「郵便為替」にする場合は，要項綴り込みの封筒にて，上記の書類と共に書留便で送付のこと。又，検定料を「現金書留」にする場合は，上記の書類と別送にすること。

② 受験票送付のための返信用封筒(定形)を同封すること。宛名記入，切手貼付（書留速達料610円）のこと。

6. 試　験

(1) 学　科

① 国語：現代国語
② 数学：数学Ⅰ
③ 英語：英語B

(2) 課題作文

(3) 面　接

(4) 健康診断

7. 試験日の期日と場所

2月23日は午前9時30分集合。

試験はすべて東京都千代田区三崎町　東京歯科大学歯科衛生士専門学校で行なう。

2月23日（木）	10：00～11：00 国　語	11：15～12：15 数　学	1：30～2：30 英　語	2：45～3：15 作　文
2月24日（金）	9：00～面接・健康診断			

8. 受験者注意事項

○受験当日は必ず指定時刻までに集合し，係員の指示をうけること。

○受験場への携帯品は，受験票・鉛筆・消しゴムとし，定規・下敷きの持参を許さない。

9. 合格者発表

○2月25日午後3時：東京歯科大学正面玄関（水道橋）

○合格発表についての郵便，電話による問い合わせは間違いを起こしやすいから，これらには一切応じない。

○両日とも昼食持参のこと

10. 参考事項

所在地と電話番号

〒101 東京都千代田区三崎町2丁目9番18号
TEL 03（262）3421（内線）288・269

入学時所要経費

区　分	入学時納入金	第2学年時納入金
入学金	50,000円	
授業料	年　額　400,000円	年額 400,000円
設備費	50,000円	50,000円
学生会費	（入会金含む）5,000円	3,000円
合　計	505,000円	453,000円

○入学後は上記の他に教材費，実習着代等が自己負担となります。

学　術

誌上講演会

老化は予防できるか？

その 1. 老化の生理と病理的基礎

東京農業大学教授　田多井吉之介

＜著者略歴＞
1914年東京生。
旧制一高を経て東京大学医学部1940年卒。ハーバード大学公衆衛生学部1952年卒。国立公衆衛生院生理衛生学部長を経て，現在東京農業大学生理学教授
医学博士・マスター・オブ・パブリックヘルス

はじめに

浦島太郎の伝説は，亀を助けたお礼に竜宮に遊んで，楽しい年月をすごしたものの，けっきょく玉手箱の煙によって，人生に必然的に起こる老化という悲哀を味わされることを告げる。つまり，人間もまた生物の一員としての自然法則には勝てないとの教訓を与えている。

しかし，この伝説からもわかるとおり，ライフサイクルの生物科学からみて，暦の年齢と生物的な老化度とは，必ずしも一致しない。しかも，現実面からみて，いわゆる厄年という言葉があるとおり，いわば生命力に変化をも生じかねない時期を経過しながら次第に加齢し，けっきょく老化をへて，自然の大往生をとげることを教える。

そこで，ライフサイクルの人間医学からみれば，一応，受精の瞬間に始まって母体内での生を営む胎児，ついで死にも過敏な新生児から幼児期を経て起こる心身ともに不安定ではあるものの生死には深い関わりを持たない思春期。ついで事故死や自殺は比較的多くても病死は少ない青年期。続いて，世にいう成人病が次第に頭をもたげてくる35歳に始まる中年期。そして最後に，成人病死ばかりでなく，事故死や自殺も決定的に増える老年期とに区分するのが，生物学的年齢分類となる。

ところで，このようなライフサイクルの立場からの老化観を科学的にいえば，加齢現象と呼ぶ。そして，この研究は，いわゆる厄年的なものの存在は否定しえないものの，年齢と老化度とは必ずしも一致しない。したがって，「歴年齢と生物学的年齢とは一致しない」点を，研究理念は明確にしている。

歴史をふり返ると，人間の老化研究が本格的に開始されたのは，いまを去る約30年，つまり1950年代からである。当時，米国の国立健康研究所に老年医学部が設立され，専門学者ナサン・ショック博士を中心に，本格的研究が展開されはじめた。ちょうど，筆者はそのころハーバード大学公衆衛生学部に留学し，生理学の立場からストレスや老化の研究を開始し，また健康学の基礎を検討し始めていた時期であったため，博士の所論に大いに啓発されたものである。

老化の生理現象

たしかに，老化と暦生齢とを深い相関で結びつけることは困難である。しかし，このことは，必ずしも老化だけではない。なぜなら，老化をも1つの加齢現象として眺めるならば，胎児期から幼児期の間はむろん，とくに栄養の良否との相関がとくに深い思春期の訪れは，「性成熟の加速」という比喩が示すとおり，日本だけとっても，第2次世界大戦前に比し，約3年の早熟化をもたらしている。

もちろん，性成熟が10歳で始まっても16歳で始まっても，異常というわけではないが，その大多数の平均値には，一定の傾向があり，加速されて13歳というのが世界の物質的に豊かな文明諸国の

数字である。しかし，第２次世界大戦の初期，ギリシャがドイツ軍の占領下におかれた当時，栄養の急速な低下で，女子の初潮が17歳となった記録があると，世界的に有名な医学評論家で惜しくも昨年他界した，ロックフェラー医科大学教授のルネ・ジュボス博士は，その名著『健康という幻想』の中で述べている。むろん，このような悲劇は例外で，栄養の改善が19世紀の思春期少女に相当数現われた萎黄病と呼ばれた特有の貧血を文明諸国から絶滅したと同時に，さらに進んで，性成熟の加速をも生じたわけである。

このような栄養の改善が，果して成人期以後にはどう影響するのか？　老化との関わりで甚だ興味ある問題であるが，それは次回に譲り今回は，生理機能全体の老化の大要を，できるだけグラフィックに展開してみよう。

骨

骨の老化による変化としては，古くから脱石灰化があげられ，それが高度になれば，骨多孔症の病名がつくほどになり，骨折しやすいばかりでなく，脊柱全体とくに力学的ストレスの多い腰椎が挫滅し，腰痛ばかりでなく腰曲りが起こる。昔は，そのような老人が日本にも多かったが，最近は，発展途上国中心に見られるにすぎない。

もっとも，この骨多孔症では，男女差が大きく，女子にはほとんど100%に起こるといわれる。脱石灰が原因であるから，石灰の体内利用に有意な関わりをもつ性ホルモンの影響によるものと考えられている。しかも，このホルモン作用は，とくに女性ホルモンに強く，しかも男子の加齢による男性ホルモンの低下度よりも，女性ホルモンの更年期以後の脱落が顕著に甚だしいせいであろう。しかし，意識的に牛乳や小魚などを多くとることにより，かなりの予防は達成されるから，この栄養学的配慮は，更年期以後の女性には欠かせない。

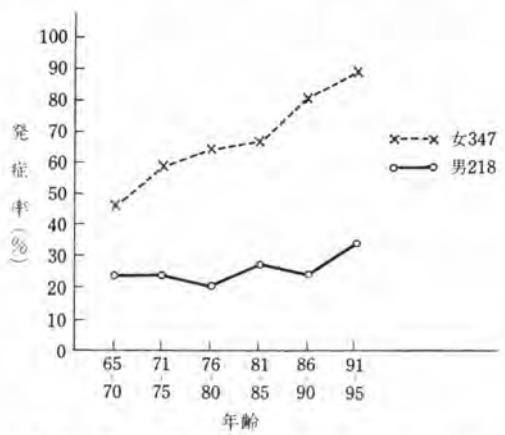


図１　重い骨多孔症（第２度から第４度まで）の年齢別発生頻度．（Gitmanら）

さらに昔から，牛乳や小魚の意識的な摂食は，小児期のムシ歯予防にもやくだつとのデータがあるくらいだから，更年期以後の女子，さらに老年期の男子もまた，牛乳やヨーグルトなどの乳製品，さらに小魚などでカルシウムを補給することは，その年代以後の歯の衛生にとってもやくだつであろう。もっとも，粘膜その他の基質を強化するコラーゲンの新生に有効なビタミンCもまた，これと平行して鼻腔粘膜などの抵抗力を強め，カゼ引きを防ぐことが疫学調査から確かめられており，さらにビタミンCは腸管からの鉄吸収にも有益であるから，老年期の栄養に見逃すことのできない重要性をもつ。

筋　　力

筋力をはかるには，もっとも広く握力計が用いられている。そのため，Schwartz らは，３～65才にわたる年令群の握力をはかり，握力は約20才までに，急速に増加するが，その後もやや上昇をつづけ30才で最高値をしめし，その後だんだんに減ると述べた。また Ufland も労働者を対象として，16～69才の年令の男子の筋力をしらべ，20～29才の 41.6kg から減少し，60～69才の群では 21.1kg にさがることを見出した。ところが，かなり最近になって，Burke らは，12～79才にたつする311名の正常男子について，新しく考案した力量計を用いて，握力と持久握力を精密にはかった。

図２は，このような力量図の分析からえた，握力（最大）と持久握力の逐年令変化の図示である。その結果は，前記の２つの報告に比して，握力のピークが若い年令層にずれ，20～24才に最高値のあることをしめしている。そして，その後は漸減

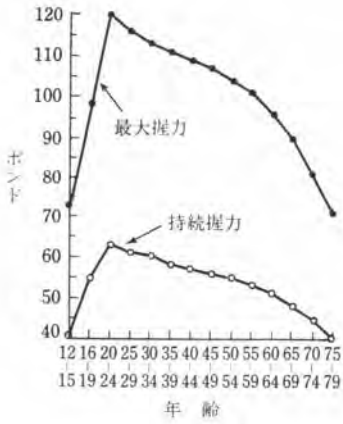


図2　最大握力と持続握力の逐年令的変化（Burkeら）

の一途をたどるが，45才過からやや減少傾向が大となり，とくに60才以後は大きく減少することを示した。そして，図にみるとおり，持久握力もまた，その変動のカーブは，前記の最大（瞬間）握力とまったく相似していることがわかる。そして，79才の握力は12～15才の値と全く同じに低下している。

むろん日本でも，握力や背筋などを調べた筆者および数名の研究者による報告があるが，大同小異であるからここでは省略しておく。

呼　吸　機　能

呼吸機能の加齢との関わりは，昔から小中高校生など身体発達過程に関連して，多くの生理学者が研究していたが，特に老化の影響についての研究が重視されだしたのは，過去30年のことである。そして，その機能検査は，病態生理学の立場から臨床医学の参考ともなることがわかったため，多くの病院でもそれを実施している。

ところで，一番古くから行われている肺活量ばかりでなく，最大換気量つまり単位時間に最大の努力を払って行う呼吸動作からえた値は，端的に呼吸機能ばかりでなく心臓機能とも結びつくため，広く採用されている。その理由は，もし肺活量を与えられた袋の最大容量として考えるならば，最大換気量はその袋の単位時間内における最大活動能力となるから，肺活量単位あたりの最大

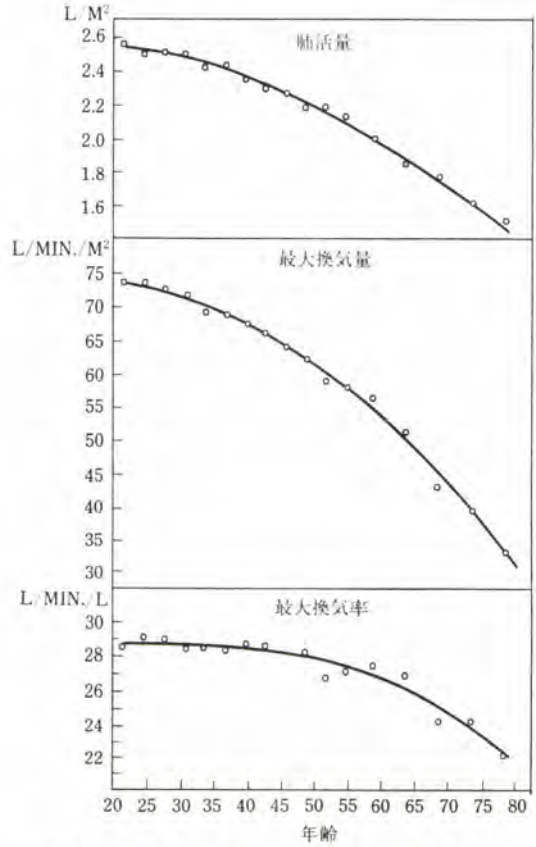


図3　肺活量，最大換気量，最大換気率の逐年齢変化（山田・田多井）

換気量をみることは，とくに動的換気能を知るうえに意味がある。山田・田多井は，肺活量1ℓ当りの相対的分時最大換気量を，分時最大換気率あるいは単に最大換気率と呼んで，その意義を強調した。（**図3**）この最大換気率は10才代のとくに男子で大であるが，20才以後は45才位までほとんど減少しない。そして，このような注目すべき最大換気率の逐年令的動態が生ずる原因は，すくなくとも40才代の前半頃まで，肺活量と最大換気量の減少が平行的に進んでいくが，その後は肺活量よりも最大換気量の減少傾向が強くなる事実にある。この点にとくに最大換気率のような筋力の因子がほとんど消去されている測値では，40才代の半ばをすぎてから，はじめて減少が現われてくるが，この減少は，肺胞の硬化のような二次的な，いわば半ば病理的な老化現象を反映している。し

たがって，この最大換気率は，呼吸機能の生理的老化現象の研究にとくに役立つ。

さらに，呼吸筋全体の筋力の低下ばかりでなく，心臓機能の減退や狭窄性の換気不全のほうがむしろ強く影響されるため，最大換気量と最大換気率は，生理的老化において，肺活量よりも，もっと大きな意味があり，したがって，二次的老化現象を知るための，きわめて有益な指標になることは確かである。

血管の性状

動脈硬化という言葉がしめすとおり，逐年令的に動脈の物理的性状が変化していくことは，古くから知られている。測定の容易な脈波速度についての，逐年令的な変化が報告されている。

Landowne は，上腕の皮膚面に装着した，マグネットを利用した衝撃器を用いて，皮膚面に生じた振動が，血管内を伝わって，上腕動脈下端から橈骨動脈下端にまで波及する時間を，動脈部に挿入した2つの電気的圧伝達器の記録から算出する方法をとった。この結果と，数人の同様な研究をしている学者のデータを加えて作図すると，**図4**のようになる。

この図をみると，脈波速度は，各部位によって，

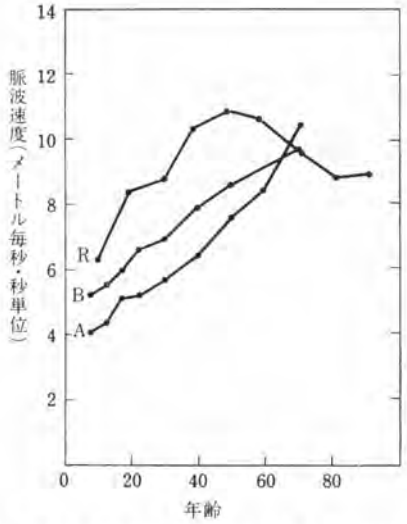


図4　動脈部位別の脈波速度と年令との関係，Aは大動脈（Hallock），Bは頚・橈骨動脈（同），Rは前腕・橈骨動脈（Landowne）

かなり逐年令的傾向が異る部分のあることがわかる。すなわち，全体からみて，大動脈・橈骨間の速度はおそいが，その逐年齢的増加傾向は一番速やかで，60才位では，ほとんど他の部分の脈波速度に一致した 9m/secの値に達する。これに対して，頸・橈骨動脈間の速度は，ほとんど直線的に，加令によって増高し，また前腕・橈骨動脈間の速度は，50才ごろより，かえって低下の方向に転じている。

この結果をみると，当然のことながら，大動脈のような太い動脈部分と，橈骨動脈のようにかなり末梢に近い部分の動脈については，変化につれて物理的性状の生じ方に，かなりの差異があると考えてよいように思われる。じっさいLandowneは，自ら測った前腕・橈骨動脈間の脈波速度が，大いに血圧に左右されることを見出している。そのようなことは，血管内の充実状態で，脈波速度が物理的にも変化してよいはずであるから，当然に考えられる。

この知見は，動脈硬化のある患者の測値と，動脈硬化のない正常な老年者の測値との間には，たとえ血圧が同じ場合でも差のあることが，かれによって併せてみられている点に結びつく，そして，血圧が低い場合については，脈波の波及の速度が，年令につれて増加するし血圧が高くなると，必ずしも，そうはならない。そして，老年者の血管は，はじめの伸展力にはやや抵抗があっても，弾性が若年者より劣るため，あたかも，最初からよく伸びるような印象をあたえるものだと結論しているが，その点は，すでに述べた肺の機械工学的老化に関する考察と併せ考えるとき，はなはだ興味ぶかいものがある。

つまり，動脈の物理学的老化もまた，その解剖学的特質に比例して，大動脈になるほど，加齢に伴う硬化が比較的早期に現われるといってよいだろう。

血圧の変動

心臓は加齢とともに，組織学的にも機能的にも，やはり20才代から，漸次変化をしめしていく。それは心搏出量の変化にはっきり現われている。こ

の変化は前記の血管変化を補償するための無意識の適応となっている。なぜなら，このような心搏出量の漸減傾向にもかかわらず，血圧は，すくなくとも60才代までは増高せざるをえないからである。

血圧は生体の内外に存在する莫大な因子の総合された帰結である。したがって，その分析は極めて困難である。しかし老人には，中枢性の反応の不適があるように認められる。統計的にみて，いわゆる正常血圧は年齢につれて上昇する。これに前記の血管変化が深く関与していることは確かであろう。

そして，血圧は生理学的見地ばかりでなく，臨床的にも重要であるため，これに関与した報告は無数にある。しかも，血圧そのものは1つの現象である。循環器系における形態的機能的な各様相の総括的なあらわれが，血圧に反映してくることは当然である。とくに2つの観点から考察を加えることにした。

第1は，いわゆるストレス・テストに対して，老年者の血圧はどのように変化してくるかという問題である。この点に関しては，幸い，Raab を中心にした研究がある。20～60才にわたる正常血圧者200名について，CO_2 の吸入による酸素欠乏を生じさせたさいの，中枢性の反応による血圧上昇の度合をしらべた。その結果年齢は**図5**にみられるとおり，年齢が進むにつれて，着実に血圧の上昇度がふえることを明らかにした。この原因は中枢神経性の刺激とカテコールアミン系のホルモン作用の，若年者と老年者との年代差によると考えられている。

さらにまた，米国人と日本人の血圧は，最近でこそほとんど相違がなくなったものの，10年くらい前までは，やはり日本人の平均値のほうが低かった。そのため，この相違に関しては，栄養学の立場から論議されてきた。したがって，ここで詳しく取り上げる必要もあるまい。ただ，環境生理学の立場から当然無視できない2，3の因子について，ここに言及しておく。たとえば，Raab のおこなった研究から，菜食主義者のほうが遙かに血圧が低く，しかも，すでに述べたような CO_2 吸入によるストレス・テストによる血圧上昇の度も少いことが，**図6**にしめすとおり，明らかに認められる。また Cruz-Coke は，アンデス山の Macusani に住むインデイアン男子の平均62.5才の896名の収縮期血圧の分布（平均115mmHg）は，同年令の西欧人の分布（平均153mmHg）よりも遙かに低い値をしめすことを報告しているが，その報告から**図7**に作成した。破線の60～69

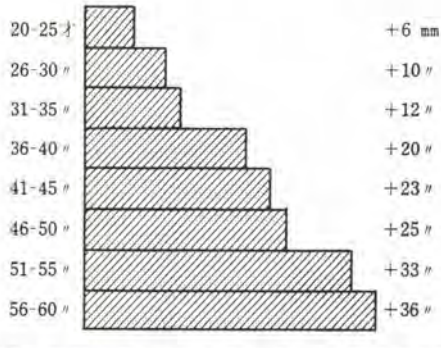


図5　年齢が進むにつれて生ずる，中枢性の血管運動の過敏性，CO_2 吸入時（Raab）。
この点だけからも50才代に達すると，喫煙の悪影響が大となることがわかる。

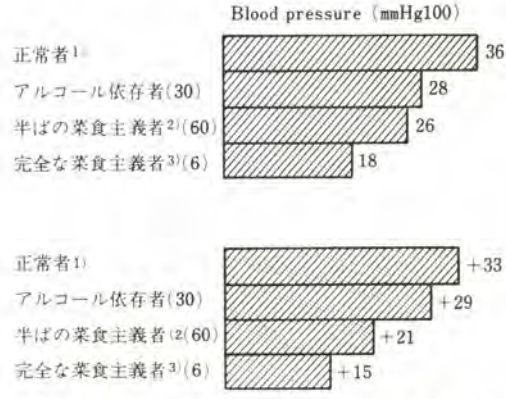


図6　食習慣の血圧レベルと中枢性血管運動の興奮性に及ぼす影響，平均年令52～53才の老年者についての研究，カッコ内は例数，ただし1）は統計数字からだした，一般人口の53才の血圧，2）は平均19年間，肉は食べないが乳製品は食べていた群，3）は平均4年間，乳製品をふくむ，あらゆる動物質をたべない群，下図はCO_2の吸入後の血圧変化，正常者では，51～55才で33mmHgの上昇をしめす。（Raab）

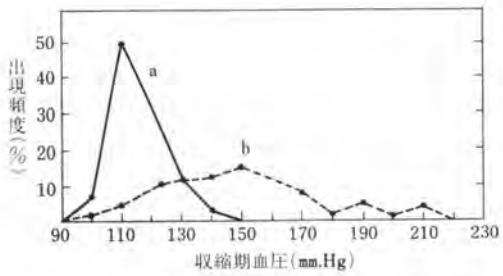


図7　種族あるいは環境因子の差による高年齢層の血圧分布の差異（Cruz-Coke）

才の98名のイギリス男子の分布(b)に比して，これらのインデイアンの分布(a)がいかに低値をしめすかがよくわかる。しかも，Cruz-Cokeによれば，同じインデイアンでも西欧文明に接したグループは，はるかに高い，西欧人に似た血圧をもっているという。しかし，同じことは，合衆国の黒人とアフリカの黒人との間でもみられている（Weiss）。

消　化　器

消化器系は，当然のことながら，口から肛門に終わる。そして，解剖学の分類には，読者諸氏の専門分野である歯も入る。しかし，それは，ここで不要であろうから，まず口腔内からは，唾液 pH の推移を掲げる（**図8**）。それをみると，常に女子が男子を上回る pH を保っているのも興味ある。なぜそうなるかは，たぶん講義をうけた方もおられようが，筆者は知らない。ただ，加齢と共に酸性に傾いている点は間違いない。唾液 pH は疲労検査にも使われるが，疲れるほど酸性に傾くことが知られている。しかし，このSiegeらのデータをその知見と直結するわけにはいかないだろう。

ただ，関連事項として涙の量も加齢とともに減る。したがって，リゾチームなど殺菌作用を持つ物質が減るため，年寄りはよく感染症をわずらい，目が赤くなったり，その刺激で涙がでやすくなる事実を付言しておこう。

図9は，さらに下って胃内腔から分泌されるペプシン量である。ご存知のとおりタンパク質を分解する消化酵素であるが，内腔の基底細胞から分

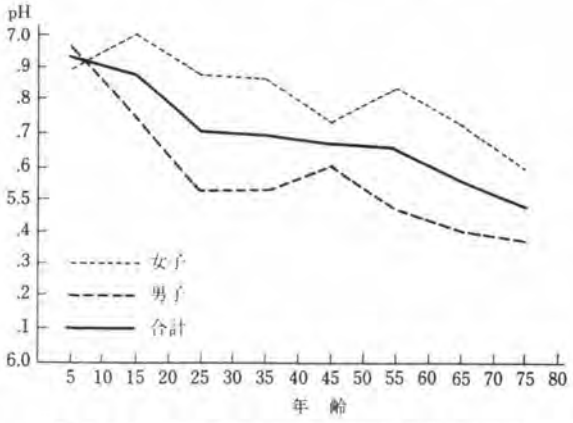


図8　0～80才の男女240名に720回のテストをおこない測定した混合唾液 pH の逐年令的変化（Siegeら）。

泌されるさいは，ペプシノーゲンと呼ばれ，まだ酵素活性を持っていない。それが，同時に別の分泌細胞からでる塩酸によって，まもなく活性化されてタンパク分解作用を持つようになる。つまりペプシンに変化するわけである。

しかも，このペプシノーゲンは心身ストレスの負荷に敏感に反応するため，この量を測ってストレス度を測定することもできる。それには，ペプシノーゲンの一部が血液に交って尿中へ排泄されるため，その排泄量の大小から，ストレス度を判定できるわけである。尿を酸性化して孵置することにより活性化し，凝乳作用を利用して定量することができるのである。

ついでに，ここで加えるならば，膵臓からでるタンパク消化酵素トリプシン，デンプン消化酵素アミラーゼ，脂肪酸分解酵素リパーゼにも，トリプシンと，ほとんど同じの年齢的低下が，Meyerらによって報告されている。

いくぶん余談になったが，**図9**でも明らかなとおり，年代による分泌量の低下は著しく，10歳代に比し，60～80歳代には，ほぼ4分の1に低下してしまう。したがって，高齢になってから，スタミナをつけようと一度に大量のタンパク食をしても，それを十分に効率よく，消化吸収することは困難となる点を見逃してはいけない。老人に多い悪性貧血者は，このウロペプシン量が少ないとの

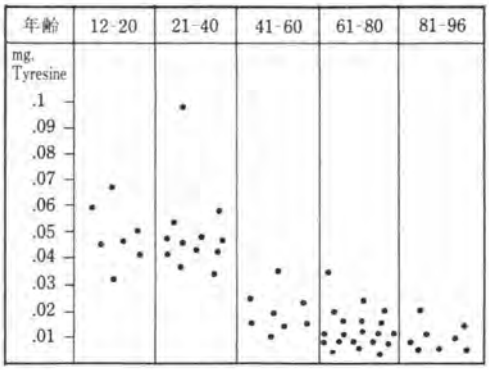


図9　ペプシンの逐年齢的変化（Meyerら）

報告もある。

さらに，ここでストレスに関して一言つけ加えておくと，消化器の潰瘍はストレスで起こりやすいのは当然として，若年期には潰瘍性大腸炎の形でおこり，発作的な下痢となる。これに対して，成人になると上行し，胃十二指腸潰瘍の形をとることがわかっている。そして，老化の生理学の立場からここで強調したいのは，老人になるほど，水分摂取が減るとともに，たぶん大腸からの体内への水の吸収力は低下しないためだろうが，便秘に傾くという事実である。したがって，排便にはとくに留意する必要がある。

肝　　臓

肝臓の働きは生化学的なものではあるが，粗大にいえば，ほとんどすべて，その重量に比例しているともいえる。なぜなら，肝臓障害はけっきょく肝硬変症を起こすから，肝臓の重量の減少は，直接その機能減退につながるとみてよい。これを前提に，年齢に伴う肝重量の変化を追及したのが，**図10**である。すでに Stieglitz ら米国の成人病学者は例外なしに，その重量は成人以後，すくなくとも40歳以後の時期に，加齢とともに減少していると書いている。その1つの Bilek らの報告を**図10**でしらべてみよう。

これは99人の肝臓の絶対重量を調べたデータであるが，女子では20歳代から50歳代までに大差はなかったものの，男子ではすでに30歳代を頂点として，その後は低下している事実を示す。したが

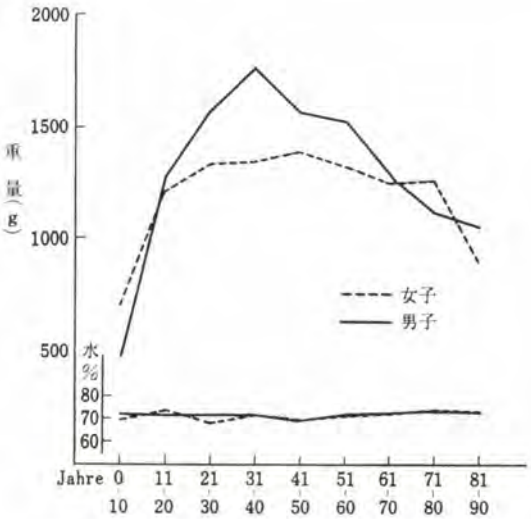


図10　肝臓重量と水分含量の逐年齢的変化，肝臓重量は減るが，水分含量には変化がない（Bilekら）

って，男子の肝臓機能の低下が，中年以後に女子に比して顕著となることがわかる。

しかし，このような低下をすべて純然たる老化の結果と考えるのは早計である点も見逃せない。なぜなら，肝硬変は飲酒，つまり日常のアルコールの摂取量が多いほど起こりやすいのは，全く医学的常識である。しかも，女性よりも男性のほうが飲酒量が多いことも，洋の東西，古今を問わず真実である。そこで，図にみるような逐年齢変化が現われるのも当然といえよう。したがって，やはり肝臓の早発老化，つまり肝硬変症を予防するためには，どうしても，節酒中心の食生活を送らなくてはならない。むろん，ただ徒らに恐れる必要はなく，通常いわれる日本人の安全限界の清酒1.5合，ウイスキーグラス2杯，ビール中2本を1回の限度とし，さらに脂肪と塩辛いものをさけ，良質のタンパクとビタミンB類を意識的に併せ食べるのが，肝臓保護にやくだつ基本法といえよう。

なお，日本の老人ホームの草わけである浴風園の老年者の肝機能についても，全般的にみて，年齢が進むほど，肝機能の低下する傾向がみられた。すなわち，全例数148人中，50才代では29%，60才代で39%，70才代で42%，80才代で71%に肝機能に障害があると判断できる程度の変化が生じてい

たそうである。

それに飲酒は肝ガンの促進因子になると，今年開かれた日本肝臓学会で癌研の小池博士らの発表がある。つまり，飲酒→アルコール性肝炎→肝硬変→肝ガンというパターンが，もっとも通りやすい道筋だという。また東大の児玉博士によれば，そのような経路を推進するアルコール量は，前記の安全限界の2倍，つまり1日3合の清酒であるというが，この量は大酒家でなくては摂取しない大量である。しかし，肝癌予防の飲酒量としては，個人差もあるから前記の1合半をお奨めするし，とくに60歳をこえたら許容量の3分の2，つまり1合程度に減らすほうが安全だといえよう。

膵　　臓

膵臓重量の逐年令的変化は，肝臓のそれと，ほぼ同一傾向をたどることが，Rössle らによって報告されている。その傾向を，**図11**にしめした。この図をみると，成人の初期に最大値をしめし約80g，それが80才になると半減して40gになることがわかる。そのうちで小島組織の重量は，成人で0.7～2.6gの間にあり，α 細胞と β 細胞の割合は1：4であるという（Ferner）。

ところで，小島のインシュリン（insulin）分泌機能については，糖負荷検査によって知るのが一番よい。そこで，かなり古くから，この方法を用いて，老年者のインシュリン分泌状態の推定がおこなわれてきた。たとえば，Deren は55才以上の感染症，糖尿病，腎炎などの病気をもたない入院患者50名を選びブドウ糖負荷試験を施し，たとえ絶食時の血糖値が正常でも，老人では糖負荷のテストに対しては異常があるとの結果をえたが，その後も，多数の研究者によって，全く同様な知見がえられている。

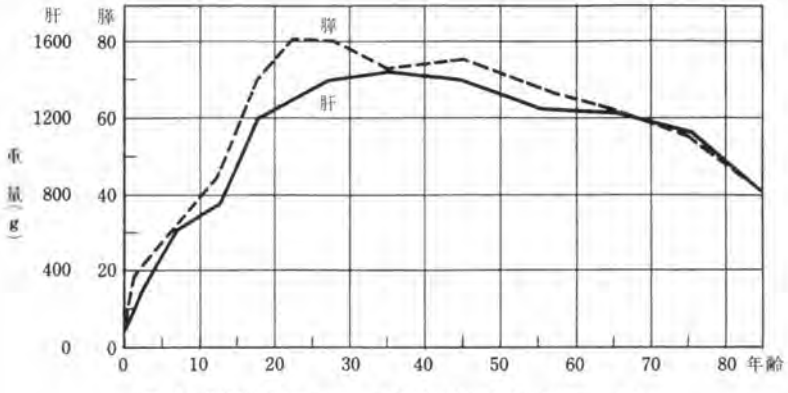


図11　肝臓と膵臓の重量の逐年齢的変化（Rösslerら）

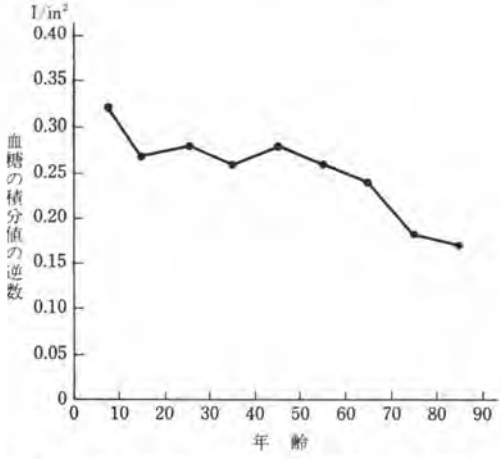


図12　糖負荷に対する血糖値の変化を基に算出した逐年令的インシュリン分泌能
（田多井）

図12は，Klotzbücher がえた糖負荷に対する血糖値曲線の年齢的差異を，筆者がプラニメーターを用いて面積，すなわち積分値とし，さらに，その逆数をもって現わした血糖値の逐年齢的変化をしめした傾向線である。この図から，50歳以後に減退していくことは明らかである。

腎　　臓

腎臓は，その微細な構造とデリケートな機能とを合わせて，老化のプロセスを研究するのに，とくに適した器官である。とくに最近開発された機能検査法を用いれば，糸球体でおこなわれる血漿からの沪過物質，また尿細管上皮の酵素活動による沪過物質の選択的再吸収，おなじく尿細管内腔に対する血液からの選択的

排泄，さらに排泄物質を新たにつくる腎臓の働きなど，バライテイ豊かな研究となる。もっとも，そのようにむずかしく考えなくても，赤血球とたんぱく質を除いた血液成分は，すべて糸球体の毛細血管膜をへて沪過され，その中にある物質，たとえば水と糖，食塩などは，すべて糸球体の毛細管壁を自由に通過し，しかも尿細管で再吸収されない物質があれば，また，糸球体でつくられる沪過液の量がわかる。そのためには，たまたまイヌリンと呼ばれる果糖だけから構成される多糖体がやくだち，しかも人間への害は全くない。そこで，これを用いて，糸球体の沪過率，つまり広くクリアランスと英語で呼ばれる機能を測ることができる。

そこで，この腎機能検査を用いて，腎臓の生理的な老化度を調べると，**図13**のような逐年齢的傾向線がでる（Davies ら）。このデータは，腎臓病，心臓血管病，その他リュウマチなどアレルギーの病歴も現症もない24～89才の男子70人からえたものであるが，50才以後の低下傾向が大きくなっている事実が認められる。したがって，食塩からタンパク，薬物，アレルギー物質などで，とくに腎臓に悪影響を与える物質については，この年代から一層の用心をする必要がある。

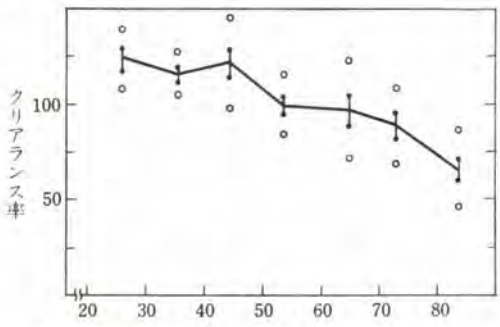


図13　糸球体濾過量(inulinクリアランス法)の逐年齢的変化，ml/min/1.73m² でしめす，平均値と平均誤差(垂直線)，ならびに標準偏差を，10才ごとの群別に算出してしめす(Daviesら)

性ホルモン

性成熟に伴い，男子では睾丸の間質細胞からアンドロステロンが，また女子では卵巣の卵胞からエストステロン（卵胞ホルモン）が生産される。女子では排卵後の卵胞からプロゲステロン（黄体ホルモン）が大量に生産されるが，このホルモンは副腎皮質でも生産され，しかも，その生理作用からみて，純然たる性ホルモンとはいえない。しかも，エストステロンとアンドロステロンは共に，それぞれ睾丸と卵胞でも生産されるが，その量が男女で少ないため，通常は特有の生理作用を持たないだけである。

しかも，これらの性成熟から，その後の性ホルモンの生産をモニターしていく裏方は，脳下垂体前葉から放出される性腺刺激ホルモンであることもまた，広く医学的常識になっている。

ではいったい，性成熟以後のこれらのホルモンの動態はどうなるのか？　それらの活動が老化に伴なって衰退するのは事実であるが，ここで，もう少し詳しく解析しておこう。

まず男子では，アンドロステロン量は60才になっても，30才代の70%を維持している。そして，はじめから量が少ないエストロゲンは変化しない。そのため，性ホルモンを放出させる裏方の性

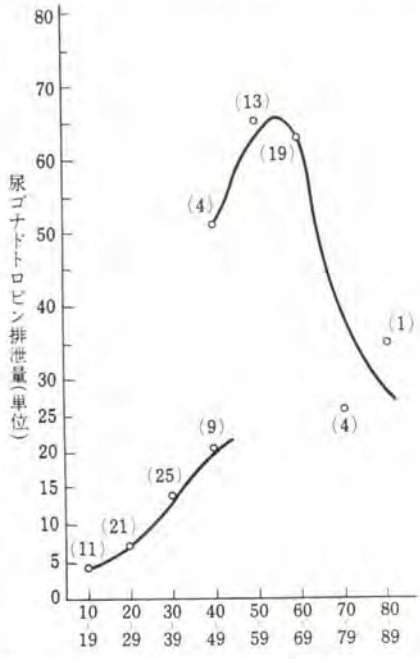


図14　女子のゴナドトロピン排泄量の年齢的変化（Albertら）

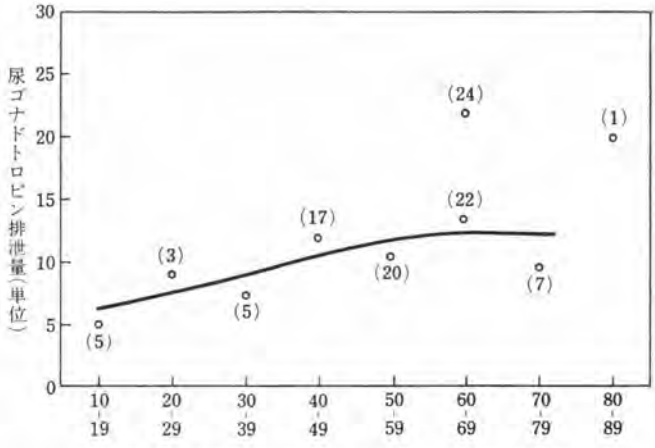


図15　男子のゴナドトロピン排泄量の年齢的変化（Albertら）

腺刺激ホルモン量は，**図15**でみるとおり，せいぜい40%程度しか増えない。

これに対して女子では，同じ年代比較でエストロゲン量は20%に減り，もともと少いアンドロゲン量も15%以下に減ってしまう。これらの減少が原因で，50歳前後の月経閉止を伴ういわゆる更年期に，男子ではほとんど全く生じない，各種の心身の不調を訴えるわけである。この時期には，いわば駑馬に鞭うつ形で，性腺刺激ホルモンが**図14**のとおり，急に3〜4倍ふえる。これが脳下垂体から脳神経系全体に影響を与え，いわゆる更年期障害としての自律神経失調症に襲われることになる。

しかし，この失調症状も，長くて2年ぐらいで平静化するのが普通である。心配しすぎると，かえって症状悪化をまねきやすい。

老年者の病態

図16は，米国の成人病学の権威ステイグ・リッツ博士が，人口1,000人について，1年間にどのくらい病気でねる日数があるかを，急性の病気と慢性の病気にわけて，年齢別に調べた結果である。この図から，思春期までの小児には急性病が多く，40歳すぎの年齢には慢性病が多いことがわかる。しかも，老年になるほど，この傾向は強まるため，たとえば，60歳の年齢では，各人平均して1年に

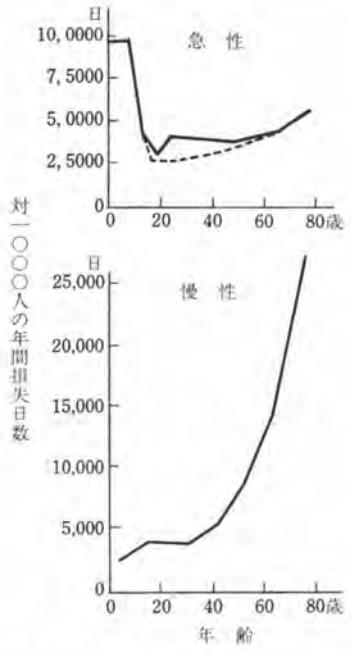


図16　人口1,000人についての年齢別年間損失日数

表1　若年者と老年者のかかる疾病の特徴

若　年		老　年
病　因	外因性	内因性
	明瞭	不明瞭
	特異的で単一	重積する
	新鮮	陳旧
発　現	派手	潜在し無症状
経　過	急性	慢性
	自動制御，免疫的	進行的，非免疫的
	個体差が僅か	個体差が大
	通常単一の疾病	数疾病が重複

2週間ずつ慢性病のために休むことになる。このように，慢性病が老人に多発することは，すでに広く知られている。

急性病は，病原菌のような明らかに特別な外因が存在し，その発病時期もはっきりし，経過は急性であるが，ある程度進行すると，自然，回復の方向にもどるものである。これに反して，慢性病では，不明瞭な原因が複雑に重なりあって古くから潜行的に進行し，その発病の時期も，はっきりとは決めにくい。また，経過は慢性的で，少しず

つではあるが，しだいに悪化していき，とどまるところがない。しかも慢性病には個人差が大きく，それに数種の異常が重複してでることが普通である（**表1**）。

たとえば，血管に障害がおこったとしよう。血管系の1つのたいせつなはたらきは栄養物質を末梢の細胞に運び，あわせて老廃物をとりさることであるが，もしも血管の異常によってこれが妨げられれば末梢の細胞は少なくとも重大な障害を受ける。そこで，もしも，その血管の異常が脳におこれば，これは脳卒中となる。また，その異常が心臓の冠状動脈におこれば，狭心症の発作がおこる。さらに，その異常が膵臓の動脈におこれば，糖尿病がおこるというわけである。このように，たった1つの血管の異常による末梢細胞の栄養障害からも，さまざまの病名のつく慢性病，すなわち，日本でいう成人病がおこることになる。したがって，とかく血管に変化のあらわれやすい老人に，成人病がおこりやすいのは，当然であるといわなければならない。＜つづく＞

母校だより

東京歯科大学新任役職者挨拶

学長の新任にともない東歯大役職者が改選されたが，新任役職者の挨拶が，６月１日（水）午後４時から本学講堂にて催された。

鹿島理事長が役員を紹介したのち，高木圭二郎学長が挨拶，以下金竹副学長，高橋学監，長谷川大学院研究科長，中久喜千葉病院長，関根水道橋病院長，羽賀歯科衛生士専門学校長の挨拶が行われた。

（高木圭二郎学長のご挨拶は同窓会報214号（８月）に掲載）

◇

副学長就任のご挨拶

金　竹　哲　也

今回，私は副学長の大役を仰せつかりました。新キャンパスにおける大学の活動はしっかりと軌道に乗り，教職員，学生とも新しい環境にも馴れた今日，これからは落ちついて各自，その分をつくし，研究に教育に大いなる発展を期せねばならない時期と思います。大学としてもこれですべての計画が完了したわけではなく，水道橋校舎の改築問題は焦眉の急ともいうべき重要な課題でありますし，市川キャンパスについても積極的な施策が望まれる現状であります。大学は，いわば第２次，第３次計画を立案，実施すべき重要な時に差しかかっているというべきでありましょう。このような折に重職を拝命いたしました私は，学長を補佐し，大学の発展のために献身いたしたい所存であります。

また今回，私は同時に理事長より法人主事をも兼ねるよう，合わせて拝命いたしましたので，大学運営の財務につきましても重責を負うこととなりました。もとより私は己れの専門の道をひたすら歩み続けてきただけの非才であり，２つの大任を同時にこなし切れるか，大いに危惧し，内心忸怩たるものがありますが，皆様方のご鞭撻とご協力とにより，渾身の勇を振るって，この大役を全うしたいと念じております。どうぞよろしくお願いいたします。

学監就任挨拶

高　橋　庄二郎

このたび，はからずも学監の職を命ぜられました。従来，本学の学監として奥村鶴吉先生，安井作太郎先生，杉山不二先生，北村勝衛先生，関根永滋先生，金竹哲也先生など大先輩が歴任され，立派な御業績をあげておられます。私の如きものが，この重大な職務をよく果たしうるかどうか，たいへん危惧している次第であります。

学監の主たる任務は，学長ならびに副学長のご

意向を大学関係の方々に明確にお伝えし，一方，多くの方々の御意見を学長ならびに副学長にご報告申し上げ，学務が円滑に遂行されるようにつとめることであると考えております。ただ本職務の遂行に際しては，常に公明正大の精神をもってあたり，大学の使命である教育，研究，臨床の３本柱の充実と発展のため，微力をつくす所存でございますので，同窓各位の絶大な御暖助と御協力を賜わりますようお願い申し上げます。

最後になりましたが，水道橋の東歯大病院から引続いて千葉病院における，５年７カ月にわたる病院長在任中には，同窓の諸先生方より温い御支援と御鞭韃をいただき，お陰様で病院長の職責を大過なくつとめることができました。ここに厚く御礼申し上げます。

千葉病院長就任のご挨拶

中久喜　喬

このたび，本学教授会のご推薦ならびに理事会のご承認をえ，去る６月１日付をもって東京歯科大学千葉病院長に就任いたしました。

本学の附属病院は，本邦最初の歯科教育病院として水道橋の地に設置されて以来，わが国の歯科界における歯科医育，医療の面で中心的役割を果たしてまいりました。そして昭和56年９月，斬新かつ機能的な千葉新キャンパスの建設に伴い，千葉病院へと発展，拡充されたのであります。この間，初代院長花沢　鼎先生をはじめとして，歴代の院長は斯界の指導的なお立場の諸先生ばかりです。その後継者として考え合わせますに，私のごとき浅学非才の身では果たして重責に耐えうるか否か内心危ぶんでおります。

千葉病院は，開院以来高橋庄二郎前病院長の陣頭指揮のもと，羽賀副院長ほか関係各位のご努力が実って目下順調に運営されつつあり，すでに大学病院としての機能は確保されました。このうえは，先達諸氏の築かれたご功績を汚さないよう，まことに微力ではありますが誠心誠意精進いたす所存です。幸い畏友佐藤徹一郎副病院長には水道橋病院副院長として活躍されてこられた経歴がありますゆえにご助言もえながら，また，臨床各科部長のご協力を仰ぎ，私の職責を全うしたいと思います。

つきましては，ここに大学教職員ならびに全国同窓の皆様方からの特段のご教導とご鞭撻とを衷心からお願い申し上げ，病院長就任のご挨拶といたします。

水道橋病院長就任のご挨拶

関根　弘

このたび水道橋病院長を命ぜられました。

水道橋病院は，大学の千葉校舎移転以来，従来の大学病院から姿を変えて，満２年を経過しました。古くなった本館を急いで建て直すべき事情とも併せて，その在り方を抜本的に検討しなければならない期を画する重要なときであります。

千葉の本拠地での教育，研究，診療が活発にかつ安定して行われ，しかも本学が歯科界での指導性を保って伸展していくために，水道橋がどのような役割を果たすべきであるかをここで十分に検討してかからねばならないと思います。長年の伝統を刻んだ地，日本の中央，在京の拠点としての役割，大学全体の安定した運営のためへの財政的な使途，その他が挙げられると思います。百年の計を樹てるに当って，きわめて長期的には必然的に変わって行く事柄と，変わる可能性のない条件とがあり，しかも変わるべきものについても年月がかかるとすれば，その途上では，種々の矛盾を抱えた対応策も採らざるをえないかと思われます。

どのような機構を組むにしても，水道橋が役割に即した好ましい姿で千葉校舎と常に一体となって効果を挙げなければならないと考えますが，私

は千葉校舎での職務と兼務でありますので，両者の交流のパイプ役としての役割をも果たしたいと考えます。水道橋病院での専任の高橋一祐教授が副院長として就任しましたので，ご協力を得て，微力ながらベストを尽して職務を全うしたいと念じております。各位のご指導ご支援のほどお願いいたします。

大学院歯学研究科長就任ご挨拶

長谷川　正　康

このたび，東京歯科大学水道橋病院長を退任し，6月1日付で東京歯科大学大学院歯学研究科長を命ぜられました。

卒業以来，東京歯科大学病院保存部を振り出しに，東京歯科大学稲毛歯科診療所長など臨床畑を歩いてきました私にとって，「学問の府」である大学院歯学研究科長に就任いたしましたことは身に余る光栄と存じますと共にその職務の重責を感じております。

私がいまさら申し上げることもないとは思いますが，本大学院は，歯学および歯学に関連する学問の領域において，理論応用を教授かつ研究し，その奥義を究め，人類福祉の増進，延いては文化の進展に寄与するとともに，有能な研究指導者を養成する目的で設置されました。

また，本大学院の博士課程については，独創的研究によって，従来の学術水準に新知見を加え，文化の発展に寄与するとともに，専攻分野に関する研究，指導能力を涵養するものと大学院学則にあります。

現代の大学院がこれでよいのか，また，21世紀の大学院は，どうあるべきかなど大学院についての問題，あるいは課題とすべき事項は多くあると思います。

しかし，いま，私は，この学則に基づいた大学院歯学研究科の運営を遅滞なく遂行するよう努力するのが務めであると思っています。

幸に，学長，副学長，学監，講座主任各位で構成されております大学院運営委員会のご指導，ご援助を戴けることなので，一生懸命努力する所存でおります。

また，大学院教務部長として町田幸雄教授，学生部長として瀬端正之教授が，また，各副部長には，金子　譲助教授，薬師寺　仁助教授が私を援助してくださることになりました。

浅学非才の身でありますので，同窓各位のご指導，ご鞭撻，さらには，ご支援を心よりお願し，就任のご挨拶にいたします。

歯科衛生士専門学校長就任に際して

羽　賀　通　夫

此度図らずも，東京歯科大学歯科衛生士専門学校長を命ぜられましたが，その光栄と職責の重みとが交錯して身のひきしまる思いであります。

申すまでもなく本学の衛生士校は全国百有余にのぼる歯科衛生士養成機関の中でも，わが国最初の開設校であり，すでに34年に及ぶ歴史と伝統の上に築かれている学校であります。

その間初代校長杉山不二教授，次いで関根永滋教授，そして第3代校長石川達也教授に引継がれ，優れた歯科衛生士を歯科界に送りつづけてまいりました。また先任の石川達也教授には今日まで12年の長期にわたり，衛生士の社会的地位向上と，その職域の充実に盡力されてこられた業績は，周知の等しく認められるところであります。

本学における歯科衛生士校は，その規模小なりといえども，法人においては大学と併列されるべき組織機構であり，入学式に始まる一連の行事を消化していかなければなりません。しかし幸いなことに，教育の実践はすべて練達の大学教員の方方によって支えられており，既にその運営も軌道上を走りつづけております。しかも今日では新学

年も発足して加速されつつあります。新校長就任に際しては，そうした日常の運営，学生達の学業にいささかの乱れもおこすことなく，スムーズに前任者と交代できることをひたすら願っております。

現在も衛生士校は，水道橋において運営されております。間もなく水道橋校舎改築計画が動きはじめるとすれば，入れ物としての整備と充実の好機と心得，その任を全うするとともに，優れた衛生士育成のために努力を重ねる所存でございます。偏えに教職員ならびに同窓の方々のお力添えをお願いして，校長就任に際してのご挨拶といたします。

○新旧学長歓送迎会

去る３月末日をもって勇退された松宮前学長ならびに６月１日をもって就任された高木新学長の観送迎会が理事長主催のもとに，６月29日（水）午後６時から新高輪プリンスホテルの飛鳥の間で開催された。

会は金竹副学長の司会で行われ，まず鹿島理事長の挨拶に始まり，松宮前学長の退任の言葉があり，大学教職員の一層の努力と健康に留意のうえますますの発展を祈念するという挨拶が述べられ，つづいて高木新学長から大学全体のコミュニケーションを基調としてますます立派な大学としたいので一段の協力を要請するという趣旨の挨拶があった。河邊同窓会長，山父兄会長の挨拶のあと，長年にわたり学長秘書を勤めた小川富士子さんから松宮前学長に，満場拍手の渦の中で全員を代表して花束が贈られた。

佐藤理事の音頭で乾盃のあと祝宴が催され，長い歓談がつづいた。

○学位記授与

第296回(58. 3.14)合格，第297回(58. 4.11)授与
大野　朝也（口外Ⅱ　第725号，乙381号）
山崎　宣夫（微生物　第726号，乙382号）
保母須弥也（生　理　第727号，乙383号）
下村　博武（薬　理　第728号，甲345号）
第297回(58. 4.11)合格，第298回(58. 5. 9)授与
飯田　尚良（病理Ⅱ　第729号，乙384号）
矢崎　秀昭（補綴Ⅲ　第730号，乙385号）
第298回(58, 5, 5)合格，第299回(58, 6, 13)授与
西井　和彦（補綴Ⅲ　第731号　甲346号）
尾松　素樹（補綴Ⅰ　第732号　甲347号）
第299回(58, 6, 13)合格，第300回(58, 7, 11)授与
佐々木研一（口外Ⅰ　第733号　甲348号）
井上　　孝（病理Ⅱ　第734号　乙386号）

○第73回歯科医師国家試験実施

第73回歯科医師国家試験が４月９日(土)，10日(日)の両日にわたって実施された。今回からは従来の試験内容と異なり，保存学・補綴学の実地試験にかわり，臨床実地のペーパーテストとなり，試験日も２日間にわたった。また，従来15問であった矯正学，口腔衛生学，小児歯科学，放射線学が５問増え20問となり計260問で実施され，本学を卒業した167名は全員が受験した。

なお，合格者の発表は５月19日(木)に告示され，本学は164名が合格した。全国的にみると全受験者数3390名中，合格者は3214名で合格率平均94.8%であり，本学の場合合格率98.8%と全国平均をうわまわる結果であった。

○大学院歯学研究科入学式

昭和58年度大学院歯学研究科の入学式が，４月19日（火）午前11時より，千葉校舎第２・３セミナー室で行われた。式は見明　清教務部長の司会で進行され，高木圭二郎学長代行の入学許可書授与，告辞，金竹哲也大学院研究科長の挨拶につづき，新入生代表の福本　裕君が力強く宣誓し，閉会した。式に引きつづきオリエンテーションが行われ中久喜　喬学生部長から学外オリエンテーション，北村栄次教務課長から論文審査手続，原田清勝学生課長から奨学金制度などについて説明を

うけた。

○昭和58年度特別研究生入学式

昭和58年度の特別研究生入学式が4月19日(火)午後1時30分から千葉校舎第8，9セミナー室で挙行された。式は見明　清教務部長の開式の辞にはじまり，新入生紹介につづき高木圭二郎学長代行訓辞，高橋庄二郎千葉病院長挨拶があり，閉会した。引きつづき，教務および学生課長から関係事項に関するオリエンテーションが行われた。

○昭和58年度教員新任式

昭和58年4月より採用された新任教員の新任式が，4月19日（火）午後2時から千葉校舎第2・3セミナー室で挙行された。見明　清教務部長開式の辞につづき，金竹哲也学監により新任者35名が紹介され，高木圭二郎学長代行訓辞，金竹学監挨拶，千葉・市川・水道橋の3病院を代表して高橋庄二郎千葉病院長挨拶があり，閉会した。引きつづき，大学関係のオリエンテーションが行われた。

○延世大学校との姉妹校締結延長

本学との姉妹校である延世大学校との協定期限が昭和57年12月で切れたため，延世大学校側から協定を延長したいとの申し入れがあり，本学は検討の結果，期限を昭和62年12月とし，5年間延長することに決定した。

○ICD fellow一行来校

昭和58年5月13日（金），Franklin M. Kenward 氏を団長とする ICD fellow 一行が本学を来訪した。午前10時40分，第1会議室で高添一郎国際渉外部長による簡単なオリエンテーションが行われた後，千葉病院を見学した。12時からは，鹿島俊雄理事長，松宮誠一名誉学長，高木圭二郎学長代行，金竹哲也学監，高橋庄二郎病院長をまじえ昼食会が行われた。午後1時からは基礎研究棟および史料室を見学し，各設備の豊かさに驚いたようであった。午後2時すぎからは“お茶の会”がもたれ，見学後の感想などが話し合われ，午後3時すぎ接待関係者の見送るなか帰途についた。

○懇親会の開催

恒例の法人役員，同窓会長，父兄会長および名誉教授と教授全員との懇親会が，7月5日（火）6時30分より，パレスホテルにおいて開かれた。

なお当日は，別記のような58年度海外出張者激励会が併せて行われた。

○第219回東歯学会開催

東歯学会例会が6月11日(土)に開催された。今回も，一般講演会場は第1，第2教室，示説会場は第2～第4セミナー室を用いて行われた。

学会において発表された一般講演は44題，示説は10題で，その他別記の如く特別講演3題が第1教室で行われた。

特別講演

1. 科学とくに物理学とその教育について
　林　淳一教授（東歯大・物理）
2. 物理教育者の立場から見た海外の歯科大学
　金光秀明教授（東歯大・物理）
3. 北欧および北米における歯内療法教育の現状
　伊藤彰人助教授（東歯大・保存1）

○第2回，第3回および第4回大学院セミナー開催

4月20日（水）午後4時より千葉校舎第1教室において第2回大学院セミナーが開催された。今回は『咬合に対する最近の考え方』と題する第2回目であり，局部義歯との関連から関根　弘教授（補綴学Ⅲ）が担当され，“咬合の座”をめぐって，歯周組織，床下組織の被圧変位性およびインプラント，顎関節を含めた神経筋機構など幅広い講演内容で，100名を越す聴衆の参加のもと成功裡に終了した。

第3回の大学院セミナーは，5月11日(水)に第1教室において，溝上隆男教授（補綴学1）の「咬合に関する最近の考え方」と題して補綴学の立場で講演が行われた。

また，第４回の大学院セミナーは６月22日(水)に第１教室において高橋庄二郎教授（口腔外科学Ⅱ）が「咬合に関する最近の考え方」として口腔外科学の立場で講演した。両講演とも，多数の大学院生および教職員が聴講し，質疑応答が活発に行われ，盛況のうちに終了した。

○大学院学外セミナー開催

恒例となった大学院新入学生に対する学外オリエンテーションが，５月12日(木)から14日(土)までの３日間にわたり東京歯科大学蓼科寮で行われた。

新入生29名全員が12日(木)午前９時40分水道橋校舎中央ホールに集合し，金竹哲也大学院研究科長の挨拶をうけた後，上野発「あさま９号」にて蓼科へ向け出発した。

午後３時30分より，蓼科寮にて開講式が行われ，町田幸雄大学院教務・学生部長の挨拶につづき，自己紹介が行われた。引きつづき，川島　康教授，井手吉信助教授を講師に招き『大学院生と研究』と題する第１回目の講演会がもたれた。

第２日目の13日(金)は，バスにて蓼科牧場・白樺湖方面への野外オリエンテーションがもたれた後，午後４時からは『大学院生と研究』と題する第２回目の講演会が浅井康宏教授，下野正基教務副部長を講師に招き行われた。

夕食後は前日にひきつづき懇談会がもたれ，有意義な一夜を過した。

最終日の14日(土)は朝食後，参加教職員および院生全員により閉講式が行われ，院生各自がレポートを提出し，帰路へついた。

○同窓会大学支部懇親会

同窓会大学支部の懇親会が，６月18日に東京ディズニーランドで行われた。参加者は１時に大学正門から２台のバスに分乗して一路浦安の東京ディズニーランドに向った。天候は曇りであったが，参加者は自由に，いろいろな乗物にのり，夜遅くまで日本のカリフォルニアを満喫し，三々五々散会した。

○海外往来

○ Per-Ingvar Brånemark教授(スウェーデン)

Göteborg 大学医学部解剖学教授でありかつ The Institute for Applied Biotechnology の所長である P. I. Brånemark 氏は，６月１日来日し，本学の千葉病院と水道橋病院で，数々の in-plant の症例手術を行い，６月18日帰国した。

○高添一郎教授

高添教授（微生物学）は，本学とテキサス大学歯学部との姉妹校締結のための事務レベル折衝のために６月11日にテキサス州ヒューストンへ出発，18日に帰国した。

○黒柳錦也教授

黒柳教授（歯科放射線学）は，Comparative Radiation Surface Doses in Pediatric Full-Mouth Surveys Using a Child Rando Phantom，の発表のため，オランダのユトレヒトへ向け，６月20日出発，26日帰国した。

○柳澤孝彰助教授

柳澤助教授（病理学Ⅰ）は，58年度海外出張の命を受け，IADR での研究発表も兼ねて６月19日，オーストラリアのシドニーへ向け出発した。８月９日の帰国までの間に，フロリダ大学，コロラド大学，プリンスフィリップデンタルホスピタルを訪問した。

○山根源之講師

山根講師（口腔外科学Ⅰ）は，西ドイツのベルリンで開催された The Secretary of the 8th International Conference on Oral Surgery において発表のため，６月24日に出発，７月８日に帰国した。

○住井俊夫助教授

住井助教授（歯科理工学）は，オーストラリアのシドニーで開催された IADR に発表するため，７月24日出発，シドニー大学歯学部を視察して８月21日帰国した。

○高添一郎教授

高添教授（微生物学）は，オーストラリアのシドニーで開かれる ICOB と IADR に発表するために７月27日に出発，８月５日に帰国した。

○田熊庄三郎教授

田熊教授(病理学Ⅰ)は，見明康雄講師とともにオーストラリアのシドニーで開かれる IADR に研究発表するために７月29日出発，８月６日に帰国した。

○人　事

退職	助手	森　名子	(歯　麻)	58. 4. 30	
昇任	助教授より教授	菅野　隆三	(数　学)	58. 4. 1	
	講師より助教授	安達　康	(補　Ⅲ)	〃	〃
	〃	高畑　悟郎	(生　物)	〃	〃
	助手より講師	米津　卓郎	(小児歯)	〃	〃
	〃	櫻井　正治	(〃)	〃	〃
	〃	本田　富彦	(口外Ⅱ)	〃	〃
	〃	中村　光博	(体　育)	〃	〃
	〃	中尾　和三	(化　学)	〃	〃
	〃	関口　浩	(小児歯)	〃	〃
	〃	小林万里恵	(歯　麻)	〃	〃
	〃	大串　勉	(保　Ⅱ)	〃	〃
	〃	近藤　祥弘	(水病歯保Ⅰ)	〃	〃
	副手より助手	中島　功	(解　剖)	〃	〃
	〃	須山　祐之	(衛　生)	〃	〃
	研究補助員より助手補	榎谷　保信	(病理Ⅰ)	〃	〃
採用	講師	財部　正治	(補　Ⅱ)	〃	〃
	〃	杉山　伸子	(市病眼科)	〃	〃
	助手	林　栄壽	(解　剖)	〃	〃
	〃	小早川　靖	(保　Ⅰ)	〃	〃
	〃	横矢　重光	(〃)	〃	〃
	〃	渡辺　英弥	(〃)	〃	〃
	〃	森山　貴史	(保　Ⅱ)	〃	〃
	〃	岩田香代子	(〃)	〃	〃
	〃	寺内　洋一	(保　Ⅲ)	〃	〃
	〃	石井　治	(〃)	〃	〃
	〃	黒澤　秀一	(〃)	〃	〃
	〃	西村　臣史	(補　Ⅱ)	〃	〃
	〃	木村　秀仁	(〃)	〃	〃
	〃	崎岡　道正	(水病補Ⅱ)	〃	〃
	〃	布施　泰	(歯　麻)	〃	〃
	〃	早川　吉彦	(歯　放)	〃	〃
	〃	溝越　俊二	(オーラルメディシン)	〃	〃
	〃	伊部　茂晴	(市病整形外科)	〃	〃
	〃	廣瀬　雅弘	(英　語)	〃	〃
	〃	島田　清純	(水病歯科)	〃	〃
	〃	西村エリ子	(水病歯科)	〃	〃
	副手	菅谷　裕子	(社　歯)	〃	〃
	〃	西川　慶一	(歯　放)	〃	〃

配置替

千葉病院から水道橋病院へ	助手	野呂　明夫	(保　Ⅰ)	〃	〃
	〃	松井　隆	(口外Ⅱ)	〃	〃
	〃	古屋　紀子	(小児歯)	58 4. 1	
	講師	櫻井　正治	(〃)	〃	〃
水道橋病院から千葉病院へ	助手	大平　秀明	(補　Ⅱ)	〃	〃
復職	助手	遊佐　康夫	(口外Ⅰ)	〃	〃

教室幹事交代　58. 4. 1 付

薬理学教室

新任　吉田　博美　助手
旧任　川口　充　助教授

教室幹事交代　58. 4. 1 付

口腔衛生学教室

新任　松久保　隆　助教授
旧任　眞木　吉信　助手

医局長交代　58. 4. 1 付

千葉病院保存科

新任　平井　義人　講師
旧任　角田　正健　〃

水道橋病院歯科(総合診療)

新任　近藤　淳一　助手
旧任　青木　驚敬　〃

水道橋病院保存科

新任　近藤　祥弘　講師
旧任　水谷　裕　助手

水道橋病院小児歯科

新任　櫻井　正治　講師
旧任　須田　希　〃

水道橋病院補綴科

新任　鈴木　隆　助手
旧任　大平　秀明　〃

辞職	講師	杉山　直	(歯　放)	58. 6. 7
	〃	松田　康男	(口外Ⅰ)	58. 6. 30
	〃	前川　成男	(保　Ⅰ)	〃
	助手	上野　宗久	(市病外科)	58. 5. 31
	〃	井合　澄子	(〃 産婦人科)	〃
	〃	中西　秀男	(矯　正)	58. 6. 30
	〃	根本　孝一	(市病整形外科)	〃
	助手補	家田美貴子	(微生物)	58. 5. 31
休職	講師	沢田　隆	(病理Ⅰ)	58. 7. 1～58. 12. 31
	助手	石井　治	(保　Ⅲ)	58. 5. 12～58. 7. 12
	助手	竹内　伸也	(市病内科)	58. 6. 1～58. 9. 30

休職期間延長

	助手	石井　治		58. 7. 13～58. 8. 31
復職	講師	小宮山弥太郎	(補Ⅲ)	58. 5. 16

配置替

千葉病院から水道橋病院へ	助教授	安達　康	(補　Ⅲ)	58. 5. 1
水道橋病院から千葉病院へ	助手	堀田　宏己	(〃)	〃

母校だより

採用	助手	安井 一男（薬 理）	58. 5. 1	助教授	山田まりえ（組 織）	58. 6. 1
〃	〃	新谷 益朗（法 歯）	〃	講師	尾松 素樹（水病・補Ⅰ）	〃
〃	〃	星 和江（小児歯）	〃	助手	西井 和彦（補 Ⅲ）	〃
〃	〃	佐草 徳子（〃）	〃	〃	岡 昭一（市病・外科）	〃
〃	〃	大多和由美（〃）	〃	〃	元山 鎮雄（市病・産婦人科）	〃
〃	〃	武石 純子（〃）	〃	〃	佐々木研一（口外Ⅰ）	〃
〃	〃	松本 小織（〃）	〃	〃	高山真一郎（市病，整形外科）	〃
〃	〃	渡辺 美紀（歯 麻）	〃	医局長交代（58. 5. 1付）		
〃	〃	武井 利夫（補 Ⅰ）	〃	千葉病院補綴科		
〃	〃	小林 慶太（〃）	〃	新任	斎藤 文明（講 師）	
〃	〃	野島 春夫（歯 放）	〃	旧任	安達 康（助教授）	

非常勤講師（継続と新任）

解剖	市川 公一	病理Ⅱ	飯田 尚良	社会歯科	佐々木達夫
〃	鹿島 隆雄	微生物	森山 徳長	〃	藤村 豊
〃	武石 醇作	〃	小幡 哲夫	〃	井上 裕
〃	若月 英三	〃	吉田 千里	〃	本村 静一
〃	野坂洋一郎	〃	本間 孝	アイソトープ研究室	入船 寅二
〃	滝口 励司	〃	佐々木脩浩	保存Ⅰ	森本 優
〃	橋本 淳	薬理	木津 弘司	〃	渡辺 郁馬
〃	宮地 健夫	〃	伊藤 博夫	〃	山岸 昭平
〃	高野 一夫	〃	中井 一仁	〃	田上 隆弘
組織	木村 亮治	〃	増田 紀男	〃	大塚 弘介
〃	高橋 勝哉	〃	後藤 和義	〃	中村 靖夫
〃	小島 薫正	〃	石塚 嗣郎	〃	小杉 国武
〃	福田 弘一	〃	松本 仁人	〃	黒田 政俊
〃	吉田 和子	歯科理工	市川 明彦	〃	森岡 俊介
〃	尾上 瞳	〃	桜井 善忠	〃	松井 啓之
生理	伊藤秀三郎	〃	若井 永	〃	斉藤 篤
〃	大久保信一	〃	松本 義敏	〃	二木 昇人
〃	大御 雅文	〃	眞坂 信夫	〃	富田 義浩
〃	谷本 義文	〃	松本 信彦	保存Ⅱ	青木 栄夫
〃	相田 英孝	〃	五十嵐俊男	〃	高橋 利武
生化学	鈴木 竜太	〃	河野 暢夫	〃	浦井 照彦
〃	宇野沢 璋	〃	大山 萬夫	〃	牧野 健司
〃	杉山 勉	衛生	吉田 浩	〃	海津 健樹
〃	井上 好平	〃	森 崇	〃	山田 茂子
〃	樋出 守世	〃	上野 真人	〃	塩崎 昭美
病理Ⅰ	近藤 三郎	〃	小西 保	〃	和田 大海
〃	大沢 和一	〃	大橋 和夫	〃	佐藤 春海
〃	山口 昭	〃	佐藤 誠	〃	八百枝正樹
〃	関口 恵造	〃	市岡 功巳	〃	笠井 俊一
〃	百束 尚彦	〃	平野 英男	保存Ⅲ	吉井 英祐
〃	相原誠一郎	口腔衛生	高橋 一夫	〃	佐藤 元
〃	桑名 泰彦	〃	佐藤 貞勝	〃	栗山 純雄
〃	古井 瞭	〃	大槻 晃	〃	大曽根正史
〃	高橋 哲夫	〃	長島 暲	〃	池田 正一
〃	共田 文彦	〃	竹山 敬始	〃	浅野 薫之
病理Ⅱ	村上 恵一	〃	川越 武久	〃	古賀 克隆
〃	玉沢 昭	〃	木津 武久	〃	盾田 克巨
〃	奥山 雅	〃	高橋 義一	〃	成田 むつ
〃	山根 瞳	法歯	古江 忠雄	〃	松井 恭平
〃	立川 哲彦	〃	遠井 政宏	〃	水谷 裕
〃	寺尾 導子	〃	飯田 慶治	〃	上田 祥士
〃	柳澤勇喜夫	〃	トーマス，T．ノグチ	小児歯科	佐牟田和康
〃	金子 弘	〃	木村 康	〃	田口 勝俊
〃	守谷 正	〃	岡田 一郎	〃	宇留賀 勝
		〃	高江洲義寛		

小児歯科	吉田　昊哲
〃	杉原　惇
〃	古沢　博行
〃	小窪　公和
〃	那須ますみ
〃	須田　希
〃	鈴木千枝子
〃	矢島　功
口腔外科Ⅰ	福武　公雄
〃	小宮　善昭
〃	榎本　洋史
〃	大根　光朝
〃	作間　敏信
〃	町田　和之
〃	山崎　康夫
〃	長内　幸一
〃	松田　康男
口腔外科Ⅱ	氏家　英峰
〃	古川　正
〃	大井　基道
〃	川本　強
〃	中沢　勝宏
〃	江里口　彰
〃	夫馬　嘉昭
〃	木村　利男
〃	田辺　晴康
〃	森　国和
歯科麻酔	福岡　明
〃	大曽根　洋
〃	西宮　寛
〃	塚越　完子
〃	伊東　哲
〃	湯本　徹
〃	藤原　孝憲
補綴Ⅰ	河邊　清治
〃	鵜養　弘
〃	阿部　勤
〃	小平　崇
〃	南　忠興
〃	林　甫
〃	玉井　久貴
〃	石塚　勇
補綴Ⅱ	桜井　裕
〃	寺尾　伸治
〃	酒井　福義
〃	山中　喜夫
〃	黒須　誠
〃	内田　智幸
〃	加部　光毅
〃	田原　邦昭
〃	児玉　定
〃	中尾　一成
〃	平尾　文昭
〃	荒野　実
〃	高宮紳一郎
〃	菊地　香
〃	畑中　政利
〃	広瀬　守
補綴Ⅲ	柳川　浩
〃	高梨　恒一
〃	石井　恒
〃	竹井　正章
〃	宮下　恒太
〃	平井　泰征
〃	武藤　直紀
〃	榎本　善保
〃	児玉　重明
〃	岡田　京子
〃	黒田　昌彦
〃	大澤　勤
〃	巣山　寛慈
〃	澤　潤
〃	佐久間重雄
〃	高梨　公男
矯正	大内　英男
〃	成瀬　隆男
〃	北総　征男
〃	根津　浩
〃	市之川正孝
〃	菊池　哲
〃	新倉　良一
〃	盧　俊雄
〃	青木　淳
〃	荒川　幸雄
〃	松崎　正信
〃	河西　一秀
矯正	中西　秀男
歯科放射線	宮　忠昭
〃	佐藤　仁
〃	太田　淑子
〃	安藤　興一
〃	恒元　博
〃	杉山　直
皮膚科	長谷川一雄
市病内科	荻野　通
〃	織田　正也
〃	鈴木　雍人
市病外科	勝俣　慶三
〃	佐藤　哲雄
市病整形	福島　和昭
市病産婦人科	牧野　恒久
市病放射線	望月　幸夫
〃	山下　孝
オーラルメディシン	吉沢　信夫
水道橋病院	坂本　英次
〃	森谷　秀樹
〃	圓　滋夫
〃	高木　省三
〃	中尾　誠
〃	秋廣　良昭
医療保険	岩渕　武介
〃	岡崎　達司
英語	B. L. S. Pierce
哲学	立野　清隆
国文学	須藤　増雄
西洋史	小城　和朗
美術	小室　信子
心理学	宮脇　竜介
経済学	羽賀　博
社会科学	種田　明
法学	金子　晃
日本史	松崎　欣一
統計学	須藤　修作
人類学	小泉　治隆
独語	赤司英一郎
英語	藤田　玲子
ラテン語	藤田　孝美

（大学広報第88，89号より抜粋掲載）

〝東西の画壇に羽博く〟同窓画伯

—昭和35年卒の菊池　豊先生—

画　歴

1963（S．38）水彩連盟展にてみづえ賞受賞
1964（S．39）第1回個展（文芸春秋画廊）
水彩連盟準会員
1965（S．40）水彩連盟会員
一陽展にて特待賞受賞
1966（S．41）水彩連盟審査員
1968（S．43）一陽会会友
1969（S．44）第2回個展（銀彩堂画廊）
1970（S．45）第3回個展（銀彩堂画廊）
1974（S．49）一陽会会友賞受賞
1975（S．50）第4回個展（銀彩堂画廊）
1976（S．51）一陽会会員
1978（S．53）一陽会審査員
1981（S．56）第5回個展（ギャラリー陽栄）
サロン・ドオトンヌ（パリ）出品
1982（S．57）第6回個展（ミタケ画廊）
第7回個展（ブレーメン・ミュンヘン，西ドイツ）
1983（S．58）第8回個展（西武百貨店画廊）
1984（S．59）第9回個展予定（ウイーン）
第10回個展予定（伊勢丹画廊）

7月7日の七夕の夜，池袋西武デパート画廊に高木学長や毛利日歯専務，ドイツ大使館の文化部長ら，そして東歯関係の多勢が集まり“菊池豊新作展”のオープニングセレモニイが催された。

菊池先生は，わが同窓，わが国いやヨーロッパで認められる芸術家である。

10月号の会員トピックスは，芸術の秋にちなんで，一陽会審査員の菊池豊画伯（昭和35年卒・同窓会会計担当理事）を訪問し御紹介致します。

菊池先生には，あらかじめ私共の聞きたい質問を個条書にお渡ししておき，お答え願う形式をとりました。

○絵を描くようになった動機

動機というような強いものは何もないのです。ただ子供の頃から絵を描くのは好きでした。学校から帰れば，宿題をする以外は自由でしたから。

只一つの例外的な環境とて云えば，兄のうちの一人が絵を描いていて，その兄の側でみようみまねで絵の具をいじることはしていました。油絵具のフランス式の名前などその頃憶えました。当時の歯医者の家庭にしては親たちがいろいろ習いごとをさせていて，ヨーロッパのレコードや，本や，楽器などがあって，それがいつか自然に自分の知識になってきたということはあります。

○画　歴

高校生の時に水彩連盟に入選し，大学の予科の時に一陽展に入選したのが，今まで何ともうれしい憶い出としてあります。というのも，最初は絵描きなりたくて，いつもその道へ進んだ友人たちがうらやましく，だから彼等と何んとかして肩を並べていたかったというのが願いでした。

一陽会の会員になる前の会友費というのはその年度に2人か3人貰うのですが，この第一席になるというのは大変に名誉なことだったのです。

○歯科医としての生活との共存

9時から働きだして，午後は5時30分まで。あとは同窓会の理事をしていることとか，ＦＤＩの大会の準備委員，都歯の保険部の常任委員などが今の主な仕事です。いつも会が終るとすぐアトリエへもどります。絵というのは続けて描くということが大変に大事なことなのです。一になまけてしまえば，絵を仕事としている人に必ず一歩も二歩も離されてしまいます。ルビンスタインというピアニストのいった言葉に“一日練習をなまければ自分に判る。二日練習をなまければ先生に判る。三日練習をなまければ聴衆に判る。”というのがあります。絵も同じです。連日1時頃まで何かやっています。身体が割合に丈夫なので，開業して25年ちかいのに休んだことはありません。

○個　展

海外をふくめて10回近くなりました。個展というのは恐しいもので，とにかく誰も助けてくれない。大体一回の個展で出す絵は25枚から30枚ぐらいです。夜一人でアトリエにいて，絵の数だけは出来てくる。然し気に入らない。時間はすぎる。本当にこんな趣味なら止めたらと思いますよ。

外国の個展もいろいろ大変なのです。むこうも商売ですから容謝ないです。大体外国の方がいい絵描きは多勢います。外国では他流試合ですね。

嬉しいのは，観衆がそれぞれの意見を私にのべ，又それぞれほめてくれる時ですね。

○画風のことと将来のこと

まだまだ画風というものなどありません。やっと菊池の絵だなと皆さんにおっしゃっていただける程度でしょう。

将来というのはどうなのでしょう。

只描くことだけでしょうね。ルオーが言うように，絵描きは結果ではない。その描く過程にあるのだということですね。

今年も西ドイツのブレーメンの効外にあるヴオルプスヴェーデというところに行きました。そこは今世紀の始めの新しい美術運動の中心地だったところで，美術館に当時の若い絵描きたちの絵が並べてあります。貧しい絵描きたちで，経済的にはつらく，そこでみつけたのはある女性の絵描きの日記なのです。

“人生は長いから素晴らしいとは思わない。私の人生は短かいだろう。祭は長いからいいのではない。短かい素晴らしい祭もあるのではないだろうか”とありました。その人たちの絵をみて私の生活の幸せをつくづく感じたものでした。

死ぬまでおそらく描きつづけるでしょうね。

あの人たちのためにもね。

昨年のドイツ個展の際のポスター

ブレーメンのオープニングでの挨拶

支部のうごき

東京地域支部連合会

58年度総会のご案内

東京地域支部連合会昭和58年度(第13回)総会を下記により開催いたしますので，お誘い合わせのうえ多数の会員のご出席をお願い申し上げます。

記

1. 日時：昭和58年11月27日（日）
   PM2：00—3：30　総　会
   PM3：30—5：00　学術講演
   演題「無歯顎の補綴と健保にみる補綴関連検査」
   講師　溝上隆男教授
   PM5：30—7：00　懇親会
2. 会場：　ダイヤモンドホテル
   千代田区一番町25<地下鉄・半蔵門線「半蔵門」下車>
   TEL263—2211

なお，総会議事については改めて会員各位にご通知します。

広島県支部連合会

東京歯科大学同窓会広島県支部総会

昭和58年度の県支部総会ならびに学術講演会は，広島市の当番のもと去る6月26日(日)午後1時より，「角翠苑」にて県内各地区より67名もの会員の出席を得て，同窓会本部より山脇弘副会長，母校からは金子譲助教授をお招きして，盛大に開催された。

熊谷謙二理事の司会で定刻に開催された。総会に先き立って3名の物故会員に黙禱を捧げた後，高橋立夫県支部長の挨拶に引きつづき藤原一郎県副支部長を座長に選出し議事に入った。

野村浩理事により庶務報告及び当日出席の2名(桂先生，福島先生)の新入会員紹介が行われ，会計報告が熊谷理事よりされ，満場一致で承認された。役員改選については，高橋支部長以下役員の留任を決定し，監事も同様留任することを承認可決された。また次期開催地を三原市とすることも決定した。続いて山脇副会長より，同総会創立80周年記念事業の募金に対してお礼が述べられ，同窓会の近況報告さらに6月1日発令の高木新学長以

下大学の新しい人事についての報告もなされた。

続いて「全身的偶発症の予防と処置」の演題で，歯科麻酔科金子助教授による学術講演会が２時間にわたってなされ，我々臨床家にとって事故防止に必要な基礎知識をわかり易くスライドにて示説された。また，日常使用する局所麻酔薬についての解説など大変参考になり，会員一同熱心に拝聴した。

この後，直ちに懇親会に移った。カラオケ大会や趣向をこらしたクイズ大会があり，新入会員から長老の先生まで和気あいあいの雰囲気であった。最後に，全員で大円陣を組み，校歌の大合唱，母校の同窓会のますますの発展を願い，岸田恒樹先生の音頭で万歳三唱して６時半に盛会裡に閉会した。

昭和59年１月１日より，むこう２年間の役員は次の通りである。

支　部　役　員

支部長	高橋立夫		
副支部長	藤原一郎	赤川安善	
常任理事	原田　保	熊谷謙二	中村　博
	野村　浩	藤井康博	上田喜清
理　事	（広島地区）戸田幸一		棟久　正
		高木勇蔵	
	（呉地区）高橋潤一郎		
	（三原地区）岸田　恒樹		
	（東広島地区）川口　徹		
	（尾道地区）中尾　文吉		
	（府中地区）黒河　成海		
	（三次地区）林　翔		
	（因島地区）大泰司正信		
監　事	藤井正毅	栗原正吉	
本部評議員	高橋立夫	中尾文吉	棟久　正

（安達　記）

京　橋　支　部

―京橋支部（水京会）学術例会―

梅雨も明け，強い日射しの中，７月30日（土）AM９：30よりPM５：00まで，水道橋校舎第２教室と，６階総合診療室に於きまして，歯科インプラントについての勉強会を催しました。

講師の下平茂穂先生は，昭和38年卒の同窓で，現在高崎で開業しておられますが，ＳＳロックピンＳＳポストピンの開発者として，インプラント学会の草分けの１人であります。

当日は，後述の講義に加えて，手術の見学と模型実習を行い，下平先生の手際よい手さばきに真剣に見入る者，また熱心に模型と取り組む者と，会場は，熱気に溢れておりました。出席者も47名と，いつもの例会よりも多く，インプラントに対する興味が，いかに大きくなっているかがわかります。また，終了後は，グリーンホテルにて懇親会を開き，下平先生を囲んでレクチャーで聞けなかったインプラントのコツなどを伺ったり，質問をしたり致しました。会員の中には，早速，インプラントを実施する者や，準備段階に入る者などもおり，勉強会の成果があらわれたものと思われます。

次回は，10月15日（土）に，岩手歯科大学歯学部の上野和之教授を迎えて，ペリオの勉強会を行う予定です。

＜講義内容＞

Ⅰ．バイオセラムインプラントの材料特性

Ⅱ．術前の診断
　○適応症と禁忌症
　○診断の実際
Ⅲ．消毒及び滅菌法
　○器具・器材，術者，介助者
Ⅳ．臨床設計
　○臨床例を通じて
Ⅴ．術式とそれに伴う小外科
　○特製顎模型による術式のデモと実習
　○施術実例のビデオによる説明
Ⅵ．術後処置
　○上部構造とメンテナンス
　○失敗の原因と処置
Ⅶ．質疑応答

神奈川県支部連合同窓会

昭和58年度
臨時評議員会，総会，特別講演会，開催

会長　三島平左衛門

去る，7月16日(土)，17日(日)，熱海の大観荘に於いて，県下の先生方120名程のご出席をいただき，臨時評議員会，総会を行い，無事終了いたしました。これに先だち，三島会長から6月19日(日)，会員，家族，従業員のレクリエーションとして，鎌倉海岸において，地引網みを催し，又8月25日(木)は横浜カントリーでゴルフ大会を行いました。そして，当日11時より稲毛校舎で80周年記念の募金をしていただいた方々の名前を，銅板に載せる行事が行われ，更に全国理事会が行われています，等の報告をかねた会長挨拶があり，つづいて，日本歯科医師会会長，山崎数男先生の「歯科医療の現況と今後の問題点について」のテーマで特別講演があり，非常に有意義な講演で，会員各位は熱心に聞き，約1時間半にわたる講演を終了いたしました。6時より懇親会に入りましたが，来賓の先生方を紹介させていただきます。

山崎数男先生（日本歯科医師会会長）
河邊清治先生（東歯大同窓会会長）
高木圭二郎先生（東歯大学長）
斉藤静三先生（東歯大同窓会関口・井上・浅井後援会長）
関口恵造先生（国会議員）
加藤増夫先生（神奈川県歯科医師会会長）

その他，多数の各関係の先生方をお招きして，それぞれのお立場からのご挨拶をいただき，なごやかに懇親会に入りました。大変多忙な毎日を送られておられる先生方ですが，我々県下の先生方と，飲み，食べて，熱海の一夜を過されたわけでございます。翌17日(日)朝食をとり解散となり，すべて盛大に終了いたしました。

（原島　稔記）

クラス会だより

三　辰　会

昭和７年卒

田辺熙志朗氏の御逝去を悼む

８月５日，松井氏よりのお便りで，田辺氏のご病気を知り，早速お見舞の電話をしましたが，彼とはお話出来ず，奥さんより，明日慈恵病院へ再入院しますとの御返事，何となくあわただしい雰囲気なので，お大事にと申し上げて電話を終えました。

田辺氏とは，昭和３年東歯専に入学以来卒業迄４ヶ年間席を並べて来た間柄，常々は病気とは縁のないほどに健康で又楽天的な性格で，クラスの誰とでも親しく話の出来た羨ましい人柄で気の置けない友人でした。卒業と同時に父上のお膝元で腕を磨き，私は医局入りして，活動の場が異なり，時の流れに従い時局的な変遷等で，私は軍籍に身を置く様になり，各々の交流は一時断絶の止むなきに至りました。終戦後何年か経て交流が復活し，共に開業として友情を温め，会うたびに臨床体験談で時の過ぎるのも忘れて語り合ったのも今は楽しい思い出であります。

８月17日，奥さんよりの悲報が伝えられた時，まさかと自分の耳を疑いました。やっぱりそうか，と思ったら，急に涙と共に在りし日の面影其他が走馬灯の如く脳裡に浮び一時は茫然となり，お悔み申し上げる言葉も忘れていたところ「やはり肺癌でした」と云われた奥さんの声にやっと我に帰りました。１人，又１人と亡き数に入る級友の氏名も全員の半ばを越しました。

田辺熙志朗氏は74年の人生を逞しく生き抜かれ歯科界の為に尽くされ，幽明境を異にした今拙文を以て哀悼の意を表し，衷心より御冥福をお祈り申し上げます。

お宅は　東京都港区麻布10番2―14―7
田辺美津子様です。

死因，肺癌　８月17日没　享年74才

八丈島　飯島和夫

昭　伍　会

昭和９年卒

昭伍会卒業50周年記念総会

５月19日晴天に恵まれ稲毛の東歯大新校舎見学へ東京駅よりバスにて直行，病院の経営状態の説明を聞き，又学生の臨床状況を見聞し，只々立派でびっくりするのみ，此の日我々の為御世話下さった先生方に厚く御礼申し上げます。総会は池袋のサンシャインプリンスホテルにて午後６時開催，渋谷会長の挨拶，会務報告，安保君より会計報告あり。そして物故会員の霊に心から黙禱を捧げ冥福を祈りました後，第１日目の夕食会に移りお互の再会を喜び８時閉会。翌朝は10時出発バスにて伊東温泉への旅，途中小田原鈴広前で下車，蒲鉾工場を見学し，昼食をとり湯ヶ原を通り伊東へ４時半到着。この数時間の疲を温泉で癒し，６時より宴会に移り歌や踊りで盛大に50周年を意義あるものとしました。１夜明け21日はここで数名

の友と別れ途中小田原と羽田空港で，最後は東京駅にて来年の再会を約し解散，一路家路へと急ぎました。

出席会員，石田，宇美，及川，渋谷，樋口，以上は同伴組，単身は安保，青木，浅井，石井，大津，岡野，岡本，落合，亀山，黒川，近藤(幸)，佐藤(新)，田坂，田能村，田村(清)，竹内，服部，藤林，藤本，堀内，増田，三好，牟田，武藤，村尾，山口，薬師寺，永田。　　（田能村　記）

生涯忘れる事の出来ない五十周年記念も無事終り，またこれからは互いに体に留意し，楽しい一日一日を過す様にしましょう。

明年の計画は下記の通りです。

昭和59年５月17，18．19の２泊３日，新潟（月岡温泉）で開催の予定です。詳細は何れ。

（渋谷　記）

鹿　　鳴　　会

昭和10年卒

鹿鳴会の本年度総会を兼ねた「陸中海岸の旅」は７月21日から23日に亘り行われ，天の助けと人の和で上々の首尾で終了しました。

今秋日本で初めて開催されるＦＤＩ総会を重視，鹿鳴会では恒例化した秋の旅行を変更して異例の夏季にしたにも拘らず多くの級友の参加をみました。

長梅雨の明けきらぬやや不安な天気予報を押して出発しましたが，幸いに天候は次第に回復，特に旅行の中心である陸中海岸船の旅の当日は奇跡的な晴天に恵まれて絶好な遊覧日和りとなりました。奇岩，怪石の素晴らしい海岸線をながめなが

ら，海猫の群がる船上での楽しいひと時，また陸中海岸ならではの新鮮そのものの魚貝類の活き造りなど，更に花巻温泉は純和風数寄屋造りの佳松園での一夜，藤原三代の栄華のあとをしのび，平泉の中尊寺，毛越寺の参詣など終始団欒のうちに27日一の関駅で解散しました。

明年度の総会は松崎剛君のお世話で四国で開催することになりました。

お互いに自重自愛して元気で再会を期したいと思います。

尚，まことに残念ですが，2月19日には宇佐美尚宣君，5月12日には兵藤正徳君が逝去されました。心からご冥福をお祈りいたします（逝去会員66名，現在会員96名）。

明後年の昭和60年には卒業後50周年になりますので記念の行事を行いたいと思います。良い知恵をお貸し下さい。

〔旅行参加者〕

朝浪惣一，市の川正二，岡本伝，小野武夫，木村吉太郎，後藤和光，佐々木三知夫，鈴木義一，高橋八十吉，田中正二，徳永道秋，藤田成孝，松崎剛，松本四郎吉，横山國蔵（以上夫人，孫同伴）阿保吉七郎，伊丹一男，越智幹夫，河村三省，佐二良，椎貝敏夫

御存知の通り級友の高木圭二郎君が母校学長に就任されました。このことは，ご本人はもとより私ども同期生にとりましても誠に名誉なことで慶賀の至りです。

来る11月12日（土）に祝賀会を開催しますので是非ご出席下さい。鹿鳴会　幹事長　木村吉太郎

幹事　高木圭二郎，岡本　伝，小野武夫
山田有勝，阿保喜七郎，伊丹一男

五十一期会

昭和20年9月卒

1）学友米津武之助君が藍授褒章を受賞

春の褒章で51期会より初めての栄誉が米津君に輝いた。米津君おめでとう!!　心から御祝を申上げます。益々の御活躍を祈念します。慶祝!

2）学友高橋庄二郎君が母校学監に就任

6月より千葉病院長の高橋君が学監になった。彼の今後一層の御活躍を期待したい。慶祝!

3）学友中川博史君が厚生大臣表彰を受領

去る6月10日新潟で開催された第4回全国歯科保健大会で永年に渉り尽力された顕著な功績及び特に地域活動の推進に寄与されたことで表彰を受けられた。昨年に続いての受領に絶大な拍手をおくりたい。中川君おめでとう!!　慶祝!

4）学友鐘ヶ江徹也君の消息

去る5月中旬に胃検査で三田厚生病院に入院加療中の由，中村幹事が御見舞に伺った。何卒療養に専念されて快方にむかわれるのを祈ります。

5）学友溝呂木三省君の消息

去る6月上旬に慢性肝炎で根岸日赤病院に入院加療中の由，酒井代表幹事と増田（一）幹事が御見舞に伺った。3年前に胆石と胆嚢剔出手術をうけ予後も順調な回復経過であったが？　呉々も療養第一に専念されます様祈念します。

6）島筒康夫先生の逝去を悼む　（九大医卒）

“ボーズッ”猛烈分監の異名で知られた島筒先生が去る2月28日夜11時頃自宅で心筋梗塞にて亡くなられた。先生は海軍々医学校賀茂分校歯科医科第6期広島県賀茂海軍衛生学校第12分隊の分隊監事であった。短い期間だったが青春時代を過した賀茂の海軍生活，その中にあって炎の燃ゆるが如き情熱で何時も先頭に立ち吾々を教育され厳格な反面情愛にみちた立派な指導教官だった。戦後水道橋母校を訪問され親しく対談した時や10数年前京都で開催された賀茂会の折に久濶の栄を得た事などなつかしく思い出される。幽明境を異にした今ご冥福を祈ると共に島筒先生の霊に心から哀悼の意を捧げます。　（鶴岡　記）

十　期　会

昭和37年卒

橋本勝典君の逝去を悼む

クラスメートの橋本勝典君が昭和58年８月28日に急逝された。戸塚歯科医師会の総務理事や戸塚歯科医師会の休日急患歯科診療所長などの要職にあった彼の葬儀は戸塚歯科医師会の先生方の手で８月30日に戸塚斎場で取り行われた。

同期の者としてあまりにも早く逝った故橋本勝典君寂光院釋覚典居士に別れを惜しむ友人代表の弔詞は参列者の新たな涙を禁じ得なかった。橋本君の御冥福をお祈り申し上げます。

サブちゃん，私達は君の事をそう呼んでいました。28日の朝，サブちゃんの不幸の知らせを受けました。何が起ったのかわからなかった。将に晴天の霹靂の思いでした。

私共の付き合いは昭和31年東京歯科大学に入学した時以来30年近いものです。人の良い君は頼まれれば断る事ができず，皆から慕われていました。入学当時教室で席を隣り合わせた私が一番良く知って居ります。

在学中の６年間，君がハワイアンバンドであの細い体にデッカイ・ベースを抱え，巧みにこなしていた姿が目に浮んできます。

クラスメートの美代ちゃんと結婚したのも，私共の羨望の的でした。あんない楽しい生活をしていたサブちゃんに，こんな運命が待ち受けているとは信じられませんでした。今年の４月ご長男の寿美哉君が母校の東京歯科大学に入学して，私共クラスの者とも喜んでいた矢先でしたのに本当に残念です。５月にはこの地横浜で十期のクラス会を開きました。その時サブちゃんに幹事役を引受けていただき，全国から90余名のクラスメートが集まり，本当に，本当に楽しい会にしていただき，参加者全員が喜んで，また会おうと別れたばかりだったのに，何んとお別れの挨拶をしていいのかその言葉がみつかりません。７月にクラスの有志と下田沖に釣に出掛けた時に，船酔いすると云いながら，ビール片手に最後の最後まで少しも酔わずにはしゃぎ廻っていたのもサブちゃんだったと聞いています。

クラスきってのアイドル・サブちゃんのエピソードはいくら話しても尽きる事はありませんが，君の独特の笑顔は忘れる事はできません。サブちゃん，君はこれからという時に最愛の妻，美代子さんやご子息を遺し，他界してしまったが，御家族，御両親，御一族をしっかりと見守ってあげて下さい。私共も及ばずながらお力になりたいと思います。君とのお別れに際して言いたいことばかりで際限がありません。しかしお別れしなければならない時が参りました。橋本君，安らかに眠って下さい。さようなら！　さようなら！

友人代表　堀　光成

十　二　期　会

昭和39年卒

12期会の皆様へ

拝啓　爽やかな気候を迎え，先生方には，お変りなく，御健勝のこととお喜び申し上げます。さて今秋行われる，ＦＤＩにあわせて12期会クラス会を開催したいと思います。来年の卒業20周年記念の御相談などもありますので，是非御出席の程，お願い致します。

日時：11月14日(月)　　18：00

場所：新宿，京王プラザホテル

会費：約20,000円

〒116　荒川区西日暮里3—23—9

丹野歯科医院内　12期会事務局

富　　巳　　会

昭和40年卒

去る７月16日，岐阜長良川河畔の岐阜グランドホテルにて総会を行った。当日は参加68名の多きに，当番幹事一同大いに面目をほどこしたが，数日前よりテルテル坊主を１ダースもぶらさげての願いもむなしく，梅雨末期の集中豪雨の為，一番の目玉の鵜飼見物は中止となり，遠路はるばる参加の諸君に申訳なく，水上の一大イベントをお目に掛ける事が出来なくまことに残念であった。止むなくホテルの大広間に席をうつし，総会に引き続き宴会で旧交を温める事と相成った。宴席では，宮内庁式部職の肩書きを持つ鵜匠山下師にお願いして，舞台での鵜飼見物となったが，久々の再会に積もる話に花が咲き，山下師の英語，ドイツ語を交えてのユーモアにあふれた説明もそっちのけ，わいわいがやがやとまことににぎやかな事，それでも，山下師の名調子と気魄にのまれてか，次第に座もひき込まれ，クライマックスの鵜の登場する頃には，一同シーンと静まり返り，中には舞台に身を乗り出して，鵜匠の腰ミノのワラを引っ張る子供まで出る仕末で，本番とは又一味異なっためずらしいお座敷での鵜飼をたっぷり楽しむ事が出来た。

明けて17日も相変らずのお天気で，オプショナルツアーの木曾川での“日本ライン下り”も増水の為中止となり，小雨降る明治村にて昼食後，再来年の卒業20周年記念総会での再会を約して蒸し暑い名古屋駅にて解散した。

尚，卒業20周年記念総会は，再来年(1985年)東京都，千葉県，神奈川県の合同にて担当していただく事に決定しました。詳細はいずれ担当の諸君より連絡がある事と存じますので，その節には又，ぜひお元気なお顔で再会出来ます様，楽しみにしております。　　（菰田　記）

福　　祉　　会

昭和44年卒

第14回総会は，母校の千葉校舎見学を主体に，昭和58年８月４日(木)，５日(金)の両日千葉市にて開催された。千葉校舎厚生棟に，４日の最も暑いなかに集合，久し振りに学生食堂で昼食後，体育館，基礎棟，実習講義棟，臨床棟，病院などを約２時間見学した。感想，意見は種々あり，とに

かく有意義ではあった。総会は実習講義棟1階のセミナー室を借用していたが，夏休み中冷房節約のため，基礎棟ロビーに会場を変更して行ない，会計報告等各報告及び討議が行なわれ，次回は広島と決定した。総会決定事項等については，甲田幹事より，後刻通知される予定である。4時より臨床セミナー室にて，歯科麻酔学・金子譲助教授に講演をお願いし，外来麻酔全般についての注意，救急薬品と用具及び処置，老人の麻酔における全身管理等について短時間ながら中味の濃いお話を伺うことが出来て反応も大きかった。この後，千葉駅近くの千葉グランドホテルへ会場を移し，ご多忙のところクラス主任としてお世話頂いた石川教授のご臨席を得て，大木幹事の司会で懇親会が行なわれた。翌5日(金)は酷暑の中，鷹乃台カントリークラブで13名の会員がゴルフを楽しみ，茂木君が優勝，ベスグロは37,36で星野君が，夫々実力を発揮した。一方，家族連れはバス2台に分乗して東京ディズニーランドへ出かけ，9時過ぎより汗を流しながら歩き廻り，子供の夏休みの絵日記書きに協力した。厳暑の中，参加された会員及び御家族に幹事一同お礼を申し上げます。

なお，参加者は次の会員40名(家族45名)であった。

同伴）今井(秀，奈)，青木(淳)，上田，大木，田島(基)，柘植，鈴木(敏)，高山，広谷，中島(敏)，深水，多田，鶴木，山中，中村，橋本(淳)，長谷川，山口，緒方。

単身）猪狩，及川，内山，加部，笠原，北村，小林(俊)，近藤，佐久間，武安，甲田，高市，根津，古川，星野，細川，茂木，中川，飯沼，重浦，大鶴。　　（橋本　記）

靖　心　会

—— 社保・国保審査員同窓会 ——

＜日時＞　昭和58年７月14日（木）出席者61名
＜会場＞　新宿　東京大飯店

去る７月14日（木）午後６時より，毎年恒例の靖心会を開催いたしました。会員90名中出席者61名と，大盛会となりました。

学校側からは，高木学長をはじめ，中久喜，関根両病院長，又，支部連合会会長愛知先生，代議員世話人，村越先生，武田先生，阿保先生，田中先生，小山先生，そして都歯からは，大橋先生と各々公務の大変お忙しい中，ご出席いただき，新旧審査員に激励，ねぎらいのお言葉をいただきました。

会は，田中省順，渡辺弘，両幹事の司会により終始和やかなうちに進められ，日頃は審査員として，又役職者として，多忙な毎日を過ごしておりますので，久方振りに旧交を暖めあいました。また，今年の４月には現役審査員の佐久間五三男先生が，５月には旧審査員矢島力先生が急逝し，相次ぐ会員の不幸に，謹しんで黙禱をささげました。今回，来賓としてご出度いただきました高木圭二郎学長をはじめとして，中久喜　喬千葉病院長，関根　弘水道橋病院長にご挨拶をいただきました。また，愛知正晴支部連合会会長，佐々木達夫都歯代表，岩淵武介技官のご挨拶がありました。続いて，旧審査員記念品贈呈があり，野呂璋明先生より，旧審査員に手渡され，代表して平井泰征先生が謝辞を述べました。次に，新任の審査員の紹介が行われました。

形どおりの式のあとは，天野博徳先生の乾杯の音頭で酒宴がはじまり，恒例の鳴神保雄先生の名司会により各自一言ずつ挨拶をし，時のたつのも忘れるほど盛り上がりました。最後は互いに再会を約して，それぞれの帰途につきました。

（佐藤（元）記）

へんしゅうこうき

◆投稿規定

(1) 原稿締切

原稿の締切りは**奇数月の10日**までとし，原則として翌月発行の会報に掲載いたします。

(2) 投稿様式

投稿は原稿用紙に**横書き**とし，便箋などの使用はご遠慮下さい。

なお，会報専用の原稿用紙(22×10字行)がありますので，ご一報下されば送付いたします。

(3) 投稿字数

① 随想，詩，短歌，時評などは**1編1,500字**以内。

② 支部のうごきは，**800～1,000字**。

③ クラス会便りは，**700～800字**。

④ よろず告知板は，**200字以内**。

⑤ 写真は**一葉200字**に換算して下さい。

⑥ 折角ご投稿いただいても，規定字数を超えた場合は，掲載いたしかねますのであらかじめご諒承下さい。

(4) 写真等の返却

写真等は，原則として返却いたしませんが，特に貴重な写真などの場合は，その旨書き添えて下さればご返送いたします。

◆へんしゅうこうき

☆ 巨星落つ。母校元学長杉山不二先生は7月16日に，また，本会井上眞名誉会長は8月8日に相次いで逝去されました。最大の痛恨事であり深く哀悼の意を表します。合掌。

☆ 老化は予防できるかという人類注目の視野に立つ「誌上講演会」を本号と次号にわけて掲載致します。浦島太郎の伝説に始まる軽快なタッチは読ませられる文脈で次号が待ちこがれます。

☆ 三宅島・雄山の大爆発によって溶岩流出，阿古地区が壊滅的な打撃にもかかわらず人的被害皆無であった事は不幸中の幸いでした。いつか発生するであろう災害に備えねばなりません。

☆ 10・12。ロッキード裁判の一審判決は各界に大きな衝撃を与え，マスコミを賑わしています。「不退転」の一語もひときわ引用されはじめました。二審，三審はどうなって行くでしょう。

☆ 本号は，昭和58年11月13日開催の定時総会案内通知にもなっております。多数会員のご出席をお待ちいたします。

（馬嶋　博）

広報担当理事：梅田昭夫，溝上隆男，喜田正史，伊藤　哲，仲谷純三，平　佐武郎，馬嶋　博，野上順平
広報部会報編集委員会　委員長　櫻井善忠，副委員長　藥師寺　仁，
委　員　中久喜　喬，中村泰之，山本啓介，古川　正，松井恭平，林　量一

昭和58年10月15日　印刷
昭和58年10月20日　発行
東京歯科大学同窓会会報　第215号
編集・発行人　梅田昭夫
東京歯科大学同窓会
〒101　東京都千代田区三崎町2－9－18
電話（03）262—3421（内線226）
（03）264—4859（直通）
印刷所　一世印刷株式会社
東京都新宿区下落合2－6－22
電話（03）952—5651（代）

高輪と品川、ふたつのプリンスホテル

両プリンスホテルは、東京歯科大学同窓会の皆さまに特別サービスをご用意して、ご利用をお待ちしています。

由緒ある日本庭園を配して緑の中に静まる高輪プリンスホテル。500の客室、10をこえる各種レストラン、バー。 つねにプリンスホテルならではの、まごころをこめたおもてなしで内外のお客さまをお迎えし、真のくつろぎを提供いたしております。

都内でも有数の設備を誇るスポーツランドをはじめとして、のびのびと楽しめる新しいタイプのホテル、品川プリンスホテル。ビジネスでのご利用はもちろん、ご旅行にもご家族でのレジャーにも幅広く、気軽にご利用いただきたいホテルです。

●ご宿泊●

特別割引料金にてご利用いただけます。
ご予約は、会員専用の予約直通電話をご利用ください。
高輪プリンスホテル (03)445-1855　品川プリンスホテル (03)449-3581

★上記専用電話以外のご予約につきましては、特別料金によるご宿泊は、できませんのでご了承ください。

●ご婚礼●

同窓会の皆さまと皆さまからご紹介いただいたご婚礼に対して、
各種のサービスがございます。
サービス適用ホテルは、高輪プリンスホテル・品川プリンスホテル・麻布プリンスホテル・白金プリンス迎賓館です。

★ご予約の際は必ず東京歯科大学とお申出ください。

高輪プリンスホテル
東京都港区高輪3-13-1 〒108 TEL.(03)447-1111

品川プリンスホテル
東京都港区高輪4-10-30 〒108 TEL.(03)440-1111

歯科医療の総合商社
YOSHIDA

（写真はオプション装備例）

ニート感覚の極致に生まれたハイグレード・バージョン

「感性の時代」と呼ばれる中で、見せかけを超越した機能とデザインをもった「本物のユニット」への指向——余分なものを取り去り、極限まで整理されたかたち——このニート感覚に裏付けられた未来指向のユニットとして誕生した「エクシード」。
UFOシステムと名付けられたそのニューコンセプトの斬新さと機能性は、ドクターの熱い視線を独りじめしています。ここに登場したハイグレード・バージョン「エクシードGX」は更に一歩進んだ機能を装備した、ヨシダの第2の回答なのです。

エクシードGX
EXCEED
GX
UFO SYSTEM
United Functional Operation System
新発売

株式会社ヨシダ
〒110 東京都台東区上野7-6-9 ☎03-845-2911(代)

株式会社吉田製作所
〒130 東京都墨田区江東橋1-3-6 ☎03-631-2191(代)

資料請求券
エクシードGX

歯内療法が楽しくできる!!

糊剤根管充塡材

ヨードホルム・水酸化カルシウムパスタ

ビタペックス®

［適応症］
抜髄および感染根管治療後の根管充塡に応用します.

［特　長］
- 特殊な方法でパスタ状に調整されていますので操作性に優れ，専用のシリンジで狭小な根管内にも緻密に充塡できます.
- エックス線造影性に優れ，長期にわたり変質しません.
- 根尖歯周組織の治療に対して好影響を与えます.

本格的な根管充塡用シーラー

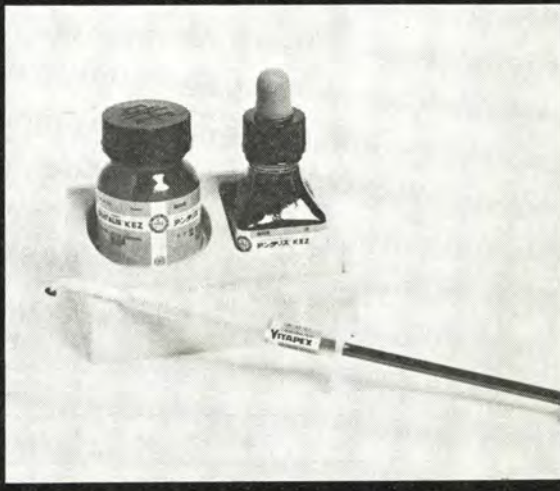
エンドドンティックセメント

デンタリス®KEZ

ケー　イー　ゼット

デンタリス KEZ は根管充塡専用のシーラーとして開発された遅硬性のエンドドンティックセメントで，当社の新製品として登場いたしました.

特　長
- 根管壁およびガッタパーチャポイントに対するヌレが良く，根管腔を緊密に閉鎖します.
- 練和後根管内では5~7分で硬化しエックス線造影性を示します.
- pHをアルカリ性に調整し，炎症巣の鎮静化をはかったセメントです.
- ガッタパーチャポイントなどのシーラーとして適切です.
- ビタペックスとの同時積層根管充塡に際しては，硬化するセメントタイプの**デンタリス KEZ**をお奨め致します.



ネオ製薬工業株式会社
〒150 東京都渋谷区広尾3-1-3　Tel.(03)400-3768(代)

金属焼付ポーセレン用金合金

KIK HARD II

- ●硬度が210Hvと硬く、長いブリッジ・うすいクラウン等にも最適です。
- ●流動性が優れており容易に鋳造できます。
- ●焼成回数を重ねてもメタルの変形はほとんどありません。

主成分　金73%・銀2.8%・白金13%・パラジウム9.7%

諸性質　●溶融温度1240～1290℃　●比重17.8　●鋳造収縮1.34

	硬度Hv	引張強さkg/mm	伸び%
鋳造時	180	44	5
グレーズ時	210	46	5
硬化時	225	48	4

KIKポーセレンの他VITA・CERAMCO等のポーセレンに使用できます。

石福金属興業株式会社

AXIS 90

DENTAL CHAIR

世界ではじめてパワー(油圧電動)ヘッドレストを実現。

スイッチひとつで、ヘッドレストが動きます。

ンタルチェアーの命といわれるヘッドレストが、スイッチひとつ
操作できる〝電動〟になりました。
者はラクな姿勢で口を大きく開けられるようになり、さらに
ターは自然な姿勢で、より広い口腔内視野が得られるように
ったアクシス〝パワーヘッドレスト〟。電動油圧技術とIC技術
結晶した、90年代志向の新しいデンタルチェアーです。

主な仕様

○高 / 420㎜●ストローク / 380㎜●チルト / リクライニング連動チルト
式●プリセット / 2ポジションメモリー方式●オプション / フートスイツ
(昇降・寝起)

※標準価格 980,000円

タカラベルモント
本社●大阪市南区島之内2-13-22☎(06)211-2831・大代表
支社●東京都港区赤坂7-1-19☎(03)403-0311・大代表

診療効率を高める究極の機能――ニュー スタンダード

診療の効率化が叫ばれているいまこそ、水平位診療の原点を極めたスペースラインが真価を発揮します。ニュースタンダードは、最新の電子技術で内部のメカニズムをグレードアップ。さらに、バキュームフィルターがハウジングの外側についてメインテナンスが楽になりました。

標準インスツルメント	ニュースタンダード	ニュース
エアーベアリングハンドピース アストロン〈AT-C〉	● ○	●
アストロンホース回路	●	●
マイクロモーターハンドピース トルックス〈TR-2N〉	●	●
スリーウェイシリンジ	● ●	●
バキュームシリンジ	●	●
サライバエジェクター（シャットオフバルブ付）		●

○は予備ハンドピースを表

（外観および仕様などは改良のため予告なく変更することがありますのでご了

21世紀のデンタルライフをひらく　株式会社モリタ　東京都台東区上野2丁目11番13号　〒110　☎(03)834-61

株式会社モリタ製作所　本社工場・京都市伏見区東浜南町680番地　〒612　☎(075)611-2141　久御山工場・京都府久世郡久御山町大字市田小字新珠城190　〒613　☎(0774)43

株式会社モリタ東京製作所　埼玉県与野市上落合355　〒338　☎(0488)52-1315

GC

生活歯にやさしい〝リブセネラ〟

Living Teeth(生活歯)への合着を考えた生体親和性の高いセメントです。

歯髄為害作用がほとんどなく、
合着時の不快な刺激も大幅に軽減。
さらに歯質への〝ヌレ〟が良く、
接着性も強力なリブセネラ。
生活歯に安心して使えるこのセメントの真価を、
ぜひ臨床の場でお確かめください。

《リブセネラの特長》

- 歯髄為害性が少なく、刺激も軽減されているので生活歯への合着に最適。
- 被膜厚さはわずか13μm。練和しやすく、流動性、歯質への〝ヌレ〟も抜群。
- 歯質・金属への接着力と溶解度の低さが約束する優れた辺縁封鎖性。
- フッ化物による二次ウ蝕予防効果も期待できます。

アイオニックポリマーセメント

リブセネラ

■液・粉末共にイオン性ポリマーを含む
まったく新しいタイプの合着材です

包装●1-1セット
1函=粉末1瓶125g入1本、
液1瓶70g入1本、パウダースプーン・
練和紙・練和用ヘラ付

G-C DIC デンタルインフォメーションセンター

●北海道DIC011(271)7373代●東北DIC0222(71)8757代●東京DIC03(816)6480(直)●名古屋DIC052(703)3231代
●大阪DIC06(771)4682代●広島DIC082(255)1771代●九州DIC092(441)1286代
●新潟出張所0252(84)6622●徳島出張所0886(25)8244●長崎出張所0958(47)6104●鹿児島出張所0992(68)0070

而至歯科工業株式会社

厚生大臣指定　　理事長 大塚昌助　校長 大塚弘介

東京歯科技工専門学校

〒141 東京都品川区西五反田5-1-10　TEL03(492)4221　（東急目蒲線 不動前駅徒歩2分）

■歯科技工学科

特　色 ● 東京歯科大学の教授陣による高度で親切な指導.
● 少数精鋭主義（定員50名）による個人指導の徹底.
● 創立以来, 国家試験合格率及び就職率共に100%の実績.

受験資格　高校卒業又は同等以上の者.
募集人員　50名（男女）　修業年限　2ヵ年（昼間）
願書受付　1次募集　11月1日(火)～1月19日(木)（年末年始の休日12月30日～1月6日まで）
2次募集　2月初旬より
試験期日　1次募集　1月21日(日)筆記・実技試験, 1月22日(月)面接・身体検査
2次募集　2月中旬
試験科目　英語(A), 数学(I・IIA), 現代国語, 実技(石膏彫刻)

■歯科技工専修科

特　色　歯科技工士の有資格者に, 更に高度の専門教育を行い, 技術の向上をはかるいわゆる大学院に相当する学科で, 本校の歯科技工学科の卒業生は優先的に入学できる.
受験資格　歯科技工士の資格を有する者（外国の免許も含む）.
募集人員　25名　修業年限　2ヵ年（昼間）
願書受付　1月7日(月)～2月下旬　試験期日　2月下旬

顧問 東京歯科大学学長 高木圭二郎先生

Shiken Blue Sky Series

粗さと、精度がシリコーン印象材に匹敵 (DE記82No.62号参照)
安さと品質で、ベストの臨床を!!

N. S. D.

タイプII・ノーマルセット

ラミネート袋500g

1kg缶

歯科用アルギン酸塩印象材

パナコール

発売元 株式会社モリタ
大阪：〒564 大阪府吹田市垂水町3-33-18 ☎06(380)2525(代)
東京：〒110 東京都台東区上野2-11-13 ☎03(834)6161(代)

製造元 SHIKEN 日本歯研工業株式会社